

令和6年度 年 報

市立大町山岳博物館

目 次

	頁
令和 6 (2024) 年度の活動から	3
I 資料収集・保存管理事業	4
1 資料収集	4
2 資料保存管理	4
II 調査研究事業	6
1 調査研究	6
III 教育普及事業	7
1 展示	7
2 教育普及活動	11
3 執筆・出版	23
4 広報・宣伝	25
5 大町博物館連絡会	26
6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会	26
7 大町山岳博物館友の会	27
8 ライチョウ会議	29
9 長野県山岳総合センターとの連携事業	29
10 長野県環境保全研究所との連携事業	30
IV 動植物飼育栽培繁殖事業	30
1 動物飼育繁殖	30
2 植物栽培繁殖	33
3 付属園整備	33
4 公益社団法人日本動物園水族館協会	34
V その他	34
1 各種委員等の委嘱他	34
2 アルプス動物園との友好提携協定の締結	34
3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結	34
4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結	35
5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結	35
6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力	35
VI 運営	36
1 組織および職員構成	36
2 市立大町山岳博物館協議会	36
3 利用者状況	38
4 令和 6 年度予算・決算	42
5 ミュージアムカフェ・ショップ	42
VII 関係条例規則等	43
1 市立大町山岳博物館条例	43
2 市立大町山岳博物館規則	45
3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱	50
VIII 市立大町山岳博物館の使命	51
1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に	51
2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念	51
3 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針	52
IX 施設	54
1 敷地面積	54
2 本館建物	54
3 付属施設	55
X 利用案内	56

令和6（2024）年度の活動から

館長 太田 三博

新型コロナウイルス感染症拡大で著しい減少傾向にあった当館の入館者は、令和4年度以降徐々に回復状況にあり、令和6年度の入館者数は対前年比119%でした。特にインバウンドの方は、冬季の降雪に見舞われる天候であっても連日お越しいただき、館内の見学はもちろん、付属園で展示する日本固有種でかつ日本の特別天然記念物のニホンカモシカやニホンライチョウを見学されていました。日によってはインバウンドの方のほうが多いこともあり、令和6年度からは多言語化に対応した音声ガイダンスシステムを本格稼働させました。

一方で、コロナ禍前はニーズが高かった学校との連携・融合「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）は、今年度は市内3小学校、延べ5回の実施にとどまり、コロナ禍以降、希望校が減少傾向にあります。本事業を体験いただいた後、近隣町村に転出された先生方からは、実施継続の希望が寄せられたほどですので、提供するプログラムの学習効果は高いものと判断されますが、連携授業の機会の減少は、異動時の申し送りの欠如や学校を通した周知不足が原因の一つと考えられ、今後は学校長を通じた依頼や学校との緊密な連携を図れる仕組み作りが必要と実感したところでございます。

また、職業体験学習においては、今年度は高校からの依頼がなく中学生のみでしたが、最大2名のところ、1名という学校が2校あり、学芸員の仕事内容がよくわからないことにあるのか、希望動機につながらないのはそもそも興味がないのかわかりませんが、将来を見据えると博物館の行く末が危ぶまれる結果でした。一方、大学生等の博物館（学芸員）実習希望者は多く、例年定員を上回る申し込みがあり、来年度以降は受け入れ人数を増やす対応を検討したいと考えております。

令和6年度の大きな事業としては、環境省の第二期ライチョウ保護増殖実施計画に基づき中央アルプスで行われた「ライチョウ野生復帰事業実施計画」に参加し、当館では12羽のヒナが誕生、そのうち8羽を若鳥へと成長させることができました。秋には、この若鳥を中央アルプスの高山帯に放鳥させるに至りましたが、残念ながら現地までの輸送時に車中にて3羽が死亡する事故が発生しました。本件は日本動物園水族館協会「中央アルプス駒ヶ岳へのライチョウ移送時死亡事故調査会」において検証を行い、今後の輸送時に万全を期すため問題点の改善に向け再発防止策が検討されました。来年度は、この計画の最終年にあたることから、放鳥に向け細心の注意を払い取り組んで参ります。

企画展に関しましては、「大町の少年が世界を駆ける～山岳ランナー上田瑠偉10年の軌跡～」、北アルプス国際芸術祭2024パートナーシップ事業「日本人とエベレスト～その聖性から大衆化まで～」及び「小学校の生きもの探索記」を開催いたしました。「小学校の生きもの探索記」は市内6校を2年間かけて学芸員が調査を行い、学校ごとの環境の違いによる鳥や昆虫の出現種の違いを紹介しているほか、学校や家庭で観察できる事柄について、県内の博物館に在籍する学芸員ら8名に紹介いただくなど、興味深い内容で開催いたしました。

最後に資料収集・保存管理事業でございますが、寄贈また収集した資料の登録を行い、人文科学系及び自然科学系の資料情報を一部の分野を除き、博物館HP及びサイエンスミュージアムネット（S-net）で公開しております。今後も収蔵資料の多くを公開するよう努めて参りますが、収蔵に必要な備品等の購入が厳しい財政状況がここ数年続いています。こうした現状を憂慮し、本事業に対して大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」様のほか、個人2名の方とともに植物標本庫2台のご寄附は大変ありがたいもので感謝の念に堪えません。

当館の事業の実施にあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、大町山岳博物館友の会の皆様、その他関係機関の皆様に大変お世話になりました。末筆ながら深く御礼を申し上げるとともに、引き続き当館の活動と運営に更なるご理解とご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

I 資料収集・保存管理事業

1 資料収集

(1) 新規収集資料

令和6年4月1日から令和7年3月31日の間に寄贈によって次の資料を収藏した。

① 寄贈による収集資料

内訳は、植物資料2件955点、人文科学系：山岳資料4件67点、山岳図書資料5件49点である。

No.	受入日	資料名	数量	寄贈者	住所
1	6月2日	山岳図書（日本の山々 塚本閣治作品集）	1点	個人	東京都西東京市
2	8月21日	登山用具（ピッケルほか）53点及び山岳図書4点（登山の話ほか）	57点	個人	埼玉県越谷市
3	9月8日	山岳図書（グリーンランド遠征隊報告書ほか）	10点	個人	茨城県水戸市
4	9月20日	山岳図書（THE MOUNTAINS NO.8ほか）	3点	個人	長野県木曽郡木曽町
5	10月22日	山岳図書（日本山水論ほか）	31点	個人	千葉県白井市
6	10月23日	植物さく葉標本	917点	個人	長野県松本市
7	11月16日	山岳関係パンフレット	6点	個人	東京都西東京市
8	12月4日	植物さく葉標本	38点	個人	長野県松本市
9	1月25日	登高帳（昭和6・11・16・24・26・29・30年）	7点	個人	長野県大町市
10	1月28日	立山信仰史料[宝伝坊証印 1787(天明7年)]	1点	個人	長野県大町市

② 寄託による収集資料

内訳は、人文科学系：山岳資料1件2点である。

No.	受入日	資料名	数量	寄贈者	住所
1	10月11日	長野県山岳協会・中国西藏登山協会 友好兄弟山岳協会 協定書1点、 長野県山岳協会・ネパール山岳協会 友好山岳協会 協定書1点	2点	長野県山岳協会	長野県塩尻市 (事務局)

③ 交換による送出資料

令和7年1月25日に、牧野植物園に向け178点を発送した。交換標本は重複したもの（同日、同一個体あるいは同一個体群）で、当館、安曇野市豊科郷土博物館、戸隠地質化石館及び個人から選出し、当館からは12点が対象となった。

2 資料保存管理

(1) 収蔵資料

① 自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系 合計 17,964点・197ケース	
岩石、鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,070点	哺乳類（剥製・骨格標本）	249点
	197ケース	鳥類（剥製・骨格標本）	699点
蘚苔類（乾燥標本）	674点	魚類（液浸標本等）	40点
維管束植物（液浸標本）	7点	両生爬虫類（液浸標本等）	14点
維管束植物（さく葉標本）	12,820点	貝・甲殻類（液浸標本など）	30点
		昆虫（標本ドイツ箱）	258点
		その他液浸標本（調査研究資料）	103点

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系	合計 14,386 点
山岳	12,558 点	寄託 (山岳、美術)	403 点
民俗	959 点	《寄託内訳》	
美術	253 点	個人寄託 151 点 ※うちピッケル関係 93 点	
美術 (尾竹正躬関係)	201 点	団体寄託 252 点 ※うち日本山岳会 249 点、	
歴史	12 点	大町市文化財センター 1 点、長野県山岳協会 2 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系	合計 7,540 点
自然科学系一般図書資料	7,318 点	自然科学系一般A V資料	222 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系	合計 42,230 点
人文科学系一般図書資料	32,009 点	人文科学系一般A V資料	285 点
山岳資料としての図書資料 (注 ¹)	9,936 点		

(注¹) ④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 72,184 点・197 ケース (令和 7 年 3 月 31 日現在)

※昆虫標本 (液浸標本および未標本作製資料を含む) については現在点検中

⑥現状と課題

a. 自然科学系

植物さく標本については、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、約 500 点の登録および配架が完了した。あわせてミュージアムネット (S-net) に情報提供を行った。

昆虫標本については、未整理のものが多数あり、今後整理・登録を行っていく必要がある。また、哺乳類・鳥類の資料をはじめとする動物資料の目録について、ホームページでの一般公開に至っていないことから、内容を精査し、順次掲載できるように準備を進めたい。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料 (二次資料や文献資料も含む) 及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。これらの目録について、令和 3 年度以降は未更新であったが、その間の未登録分を含め、令和 6 年度の新規登録分を含めたものを作成したので、最新版に更新予定。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料 (全分野) のほか、市文化財センターの収蔵資料 (考古・歴史・民俗資料) と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入 (目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め) の必要・有効性や効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

(2) 保存管理

資料の保存あたっては、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行うとともに、夏期に空調を稼働して温湿度を調節して防黴等の対策を行ったほか、外気との接点を目止めするなどの防塵対策を行うことで、展示・収蔵環境の管理を随時行った。

寄贈資料等について、収蔵庫や山岳図書資料館への配架に際し、事前に浸透性の高いフッ化スルフル系製剤（ヴァイケーン薬剤）を用いた専門業者による24時間の包み込み燻蒸を本年度も行った。

展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理にともなう日常業務の作業量増加や、施設の老朽化に伴う対処業務の事務量増加への対応を検討するとともに、将来を見通した抜本的な施設改修計画を策定する必要がある。同時に、事業全体の中での展示・収蔵環境の維持管理の位置づけを再確認するとともに、分野ごとの担当業務量のバランスを考慮した上で、PDCAサイクルやD-OODAループによる個別事業と事業全体の再評価と業務の効率化を一層図るなどの業務改善を継続実施することが重要である。

II 調査研究事業

1 調査研究

(1) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

白馬岳において7月および8月にクルマユリ及びヒメクワガタを対象に訪花昆虫の観察を実施した。また、博物館で栽培するミヤマオダマキの個体を利用して除雄処理や袋掛け処理などを行い結実特性について実験を実施した。ミヤマオダマキの結果については、市立大町山岳博物館研究紀要第10号に反映させた。

(2) ライチョウの飼育・繁殖技術確立を目指した研究（担当：岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧澤有純）

環境省のライチョウ保護増殖事業取り組みの一環として、ライチョウ飼育園館や、研究機関（日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、大阪公立大学等）と連携しながら共同研究を行っている。本年度は環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に参画し、繁殖させた雛を対象に野生型腸内細菌の定着及びアイメリシア原虫の投与を行った後、5羽の雛について中央アルプスへの野生復帰を実施した。野生型腸内細菌の定着を行うための手順として、人工孵化した雛に、野生下ライチョウ由来の菌末の投与と、高山植物の給餌を行った。この事業の中で、高山植物の嗜好性についてのデータ収集ならびに野生型腸内細菌およびアイメリシア原虫の定着についての検査協力等、野生復帰個体創出のための飼育方法の確立に寄与した。また、室温が産卵に及ぼす影響を調査するためのデータ提供等を行った。

今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

(3) 北アルプス地域の気象に関する調査研究（担当：鈴木啓助）

爺ヶ岳種池山荘での自動測器による気象観測を、長野県環境保全研究所と共同しながら継続して実施している。

大北地域における気象庁による気象観測は、現在のアメダス観測網では大町、白馬、小谷のみである。しかし、アメダス観測以前にはさらに多くの地点で気温や積雪深などの観測が行われていた。それら区内気象観測所における手書きによる観測原簿から、データを読み取り解析を行っている。

(4) 立山信仰に関する史料調査（担当：関悟志）

本調査は、大町市内に現存する立山信仰に関する史料である文書「金像地蔵尊施財稟」文政8年（1825）について文献調査や現地確認を行った。調査結果は、本年度研究紀要において資料として掲載した。

2 研究発表

(1) 「市立大町山岳博物館 研究紀要 第 10 号」

① 原著論文

- ・河川流量から算定する高瀬川流域の降積雪量の変動（鈴木啓助）

② 報告

- ・ミヤマオダマキ（キンポウゲ科）の生活史および結実特性について—日本産草本植物の生活史研究
プロジェクト報告大 17 報一（千葉悟志・白井伸和・四方圭一郎・有川美保子・宮澤陽美）

③ 短報

- ・大町市周辺に露出する大町テフラ層について（その 2）（竹村健一）

④ 資料

- ・農具川における国内外来種カネヒラの移入記録（岡本真緒）
- ・大町市内に現存する立山信仰に関する史料 一文書「金像地蔵尊施財稟」文政 8 年（1825）—（関悟志）

⑤ その他

- 上記以外の他誌掲載の論文・報告等（千葉悟志、関悟志）

III 教育普及事業

1 展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

① 展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,028 点（令和 7 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系 合計 453 点、人文科学系 合計 574 点）

展示テーマ	資料 点数※ ¹	展示テーマ	資料 点数※ ¹
3 階 展示室 「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 105 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	6 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロlogue	18 点		
2 階 ホール 「山の成り立ち」ゾーン			計 85 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	37 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	24 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	北アルプスとフォッサマグナ	4 点
2 階 展示室 「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
渓谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
1 階 展示室 「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 439 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える 一針ノ木峠の歴史一	39 点	山に暮らす 一山の恵みと山村の暮らし一	87 点
山に祈る 一山の信仰一	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る 一測量一	5 点

展示テーマ	資料 点数※ ¹	展示テーマ	資料 点数※ ¹
山を調べる 一博物学一	23点	山を描く 一絵画一	8点
山を写す 一写真一	21点	山で学ぶ 一日本の近代登山一	155点
山に住もう 一山小屋の変遷一	28点	登山の道具	23点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5点
1階 エントランス・ホール			計8点
「北アルプスの自然と人」導入	1点	山とわたしたちの未来	
新・対山館サロン	1点	こどもひろば	6点
1階 特別展示室 「山と美術 一山岳風景画とウッドシャフトピッケルー」※ ²			計23点
山岳風景画	18点	ウッドシャフトピッケル	5点

※¹ 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※² 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

②音声ガイドシステムのモニター（担当：千葉悟志）

令和6年7月1日よりコンテンツビジョン開発の音声ガイドシステムを導入し、付属園で展示する植物の紹介をはじめ、企画展の解説にも導入した。

(2) 企画展示・特別展示

①企画展「大町の少年が世界を駆ける ～山岳ランナー上田瑠偉10年の軌跡～」

（担当：岡本真緒・清水博文）

- a. 会期：令和6年8月10日（土）～10月14日（月・祝）※開催日数：延べ66日間
- b. 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室
- c. 概要：大町市出身のプロトレイルランナー上田瑠偉選手のトレイルランニング10年の軌跡について、レース中の写真、受賞したメダルやトロフィー、トレイルランニングの装備等、計45点を展示了。本展は、トレイルランニングというスポーツを知り、興味を持っていただくとともに、大町市の山岳をはじめとする、様々な山岳の雄大さやその魅力を感じていただくことを目的とした。
- d. 観覧者：8,426人（有料7,422人、無料1,004人）
- e. 初見：アンケートの結果から、市民の来館数は伸び悩んだものの、市民に大町市出身の上田選手の活躍や魅力を知っていただく機会を提供できたと考える。また、展示やイベントをとおし、トレイルランニングに興味・関心を深めていただくことができた。

f. 関連事業

ア オープニング講演会

- ・開催日：令和6年8月10日（土）
- ・時間：11:00～12:00
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・講師：上田瑠偉選手
- ・参加者：延べ参加者40人

イ トレーニングキャンプ（ミュージアムトーク）

- ・主催：上田瑠偉選手
- ・開催日：令和6年8月11日（日）～12日（月・祝）
- ・時間：10:00～11:00（ミュージアムトーク）
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：延べ参加者40人

ウ トレラン体験会

- ・開催日：令和6年9月15日（日）
- ・時 間：9:00～13:45
- ・場 所：鷹狩山
- ・講 師：上田瑠偉選手
- ・協 力：上田智夫氏
- ・参加者：16人

エ 鷹狩山トレッキング

- ・開催日：令和6年9月16日（月・祝）
- ・時 間：9:00～14:00
- ・場 所：鷹狩山
- ・講 師：上田瑠偉選手
- ・協 力：上田智夫氏
- ・参加者：5人

②北アルプス国際芸術祭 2024 パートナーシップ事業

企画展「日本人とエベレスト～その聖性から大衆化まで～」（担当：関悟志）

- a. 会 期：令和6年10月19日（土）～12月1日（日） ※開催日数：延べ38日間
- b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室
- c. 主 催：信州の山岳文化創生会議（事務局：長野県県民文化部文化振興課内）
- d. 共 催：市立大町山岳博物館
- e. 協 力：日本山岳会、山と溪谷社、読売新聞、毎日新聞社、梅棹忠夫・山と探険文学賞委員会
- f. 概 要：本展では、1970（昭和45）年日本隊の登頂、1975（昭和50）年女性初登頂など、日本隊の活動を中心に、エベレストの聖性から大衆化までの過程を俯瞰した、日本人登山家たちの貴重な写真パネル約30点を展示。また、1970年の日本山岳会エベレスト登山隊に隊員として参加し、第二次アタック隊で登頂した大町市出身の平林克敏氏が使った登攀装備などの実物資料約10点もあわせて展示了。
- g. 観覧者：3,232人（有料2,647人、無料585人）
- h. 所 見：当初、本年度の当館事業計画では予定されておらず、4月以降に急遽開催が正式決定した事業であった。日本からは遠く離れた極限の高所に位置するエベレストであるが、当市出身の平林克敏氏が日本人初となるエベレスト登頂を果たした1970年日本山岳会エベレスト登山隊の隊員として参加して登頂していることから、「山岳文化都市」宣言を行う当市においては、ゆかりのある高峰であるといえる。この展示や関連催しを通じ、国内外の山の自然環境や歴史文化に幅広く関心を寄せていただくことで、現代そして未来に向けた“山と私たちとのかかわり”的在り方を考えるひとつのきっかけとなったと考える。
- i. 関連事業

企画展関連催し「講演・シンポジウム」（担当：関悟志）

- ・開催日：令和6年11月17日（日）
- ・時 間：午後1時30分～午後4時
- ・場 所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・主催・共催・協力：企画展と同じ
- ・参加者：49人（大人）
- ・概 要：企画展関連催しとして、エベレスト登山に精通した講師・パネラーを招き、会期中に講演・シンポジウムを開催。
- ・講演「写真で見るエベレスト日本隊」
講師：神長幹雄氏（株山と溪谷社 元山岳図書出版部長）
- ・シンポジウム「エベレスト 聖性からその喪失まで」
パネラー：古野 淳氏（日本山岳会 前会長、日大エベレスト登山隊 北東稜初登攀）
倉岡裕之氏（登山家・山岳ガイド、エベレスト登頂11回 日本人最多）
神長幹雄氏（日本山岳会 元常務理事）
- ・コーディネーター：扇田孝之氏（信州の山岳 文化創生会議委員）

j. 関連印刷物

主催者である信州の山岳文化創生会議の予算により、広報用リーフレット（A4判、両面カラー）2,000部を印刷した。当館の広報誌『山と博物館』特集記事掲載10,000部を印刷したほか、当館公式ウェブサイトで企画展特集ページを組むなどして広報を行った。

③企画展「小学校の生きもの探索記」（担当：千葉悟志）

a. 会期：令和7年3月9日（日）～5月10日（土） ※開催日数：延べ69日間

b. 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概要：自然というと、学校や家とは離れた場所にあると思う方もいるかもしれないが、学校には生け垣や花壇、池やそれにつながる流路があるほか、周囲に果樹園や田畠などの環境もあり、そこには、いろいろな生き物が生活していて、自然観察には、うってつけの場所である。

そこで、本展では日ごろから、自然に触れ、解説する機会が多い博物館学芸員や地域に根差して観察を続ける研究者が、小学生のみなさんに対してであれば「これは、紹介したい」という学校や家で観察できる事柄について、それぞれの視点で紹介し、学校では先生や友人と、家庭では保護者等とともに身近な自然を楽しむきっかけづくりとすることを目的に開催するものである。

d. 展示構成：実物資料45点、パネル（写真・図含む）19点を展示し解説した。

第一部 ここ注目～・・・各学校や家庭で観察可能な事柄について各執筆者が解説。

第二部 学校で見られる鳥を調べる・・・当館学芸員が季節を通じて観察した鳥について環境を含めた解説。

第三部 学校で見られる昆虫を調べる・・・当館学芸員が季節を通じて観察した昆虫について環境を含めた解説。

第四部 標本をつくろう・・・標本の重要性や植物や昆虫の標本のつくり方を紹介。

e. その他：観覧者数及び所見並びに関連イベントの詳細については、期間中であることから、令和7年度において報告する。

（3） さんばく研究最前線 一北アルプスの自然と人 トピックスー（担当：関悟志）

山岳博物館2階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成26年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示後、一部は八坂公民館で展示を行った。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧いただけなかった方々にも情報提供を行った。

①テーマ「大町市における昆虫の動態について」（担当：清水博文）

a. 会期：令和6年4月2日（火）～6月30日（日）

b. 掲載誌：『山と博物館』2023冬号（第68巻第4号）

②テーマ「峠」がおもしろい（担当：竹村健一）

a. 会期：令和6年7月2日（火）～9月29日（日）

b. 掲載誌：『山と博物館』2024春号（第69巻第1号）

③テーマ「ライチョウの鳴き声」（担当：岡本真緒）

a. 会期：令和6年10月1日（火）～12月28日（土）

b. 掲載誌：『山と博物館』2024夏号（第69巻第2号）

④テーマ「高瀬川を流れる水の量はなぜ多いのでしょうか？」（担当：鈴木啓助）

a. 会期：令和7年1月4日（土）～3月30日（日）

b. 掲載誌：『山と博物館』2024秋号（第69巻第3号）

(4) 移動展示等

- ①「2024 信濃大町美術展・おおまちセレクション 一山と、水と、」への参加協力（担当：関悟志）
- a. 主 催：信濃大町美術展実行委員会（事務局：大町市教育委員会生涯学習課文化会館内）
 - b. 会 期：令和6年9月8日（日）～23日（月・振休）
 - c. 会 場：大町市文化会館 特設ギャラリー（ホワイエ・展示室）
 - d. 概 要：大町市内で開催された「北アルプス国際芸術祭 2024」（会期：令和6年9月13日～11月4日）にあわせ、大町市など市内所蔵作品約30点、大町市在住など地元作家作品約30点を一堂に展示。当館からは大下藤次郎の水彩画など収蔵美術資料7点を出展。このほか、大町市制70周年・水道事業100周年を記念するとともに、本展のテーマ「山と、水と」にちなみ、「資料で見る信濃おおまち水物語」と題し、大町の水環境に関する資料を展示。なお、会期中、展示会場でギャラリートークが全6回行われ、9月15日の第3回目を当館学芸員（関悟志）が担当した。

②北アルプス国際芸術祭 2024 パートナーシップ事業／令和6年度地域発元気づくり支援事業

- 「安曇野アートラインを巡り AR（拡張現実）を体験しよう」への参加協力（担当：関悟志）

- a. 主 催：安曇野アートライン推進協議会
- b. 会 期：令和6年9月13日（金）～11月4日（月・祝）
- c. 会 場：安曇野アートライン推進協議会加盟館のうち当館を含むAR作品公開館14館
- d. 概 要：AR（Augmented Reality）とは、現実の空間にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張する技術。この技術を活用した新しいかたちの芸術を楽しんでいただくために、各館で制作したAR作品を展示。当館では、AR作品は美術家・CGアート作家大澤ヨウヘイ氏（松本市出身）制作によるAR作品を入口横の外壁にて無料でご覧いただいた。なお、作品鑑賞には専用アプリのダウンロードが必要で、方法などの詳細をあわせて案内するとともに、期間中、2館以上の有料入館者に、特典としてオリジナルグッズ（缶・マグネットバッジ）を進呈した。

③「第20回 安曇野アートライン展」への参加協力（担当：関悟志）

- a. 主 催：アルプスあづみの公園管理センター
- b. 共 催：安曇野アートライン推進協議会
- c. 会 期：令和6年11月23日（土・祝）～12月15日（日）
- d. 会 場：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール（安曇野市）
- e. 概 要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館の作品等を一堂に展示し、各館所蔵の美術作品の鑑賞等を通して、北アルプス山麓でアートの世界を体感していただいた。本年度、当館からは山川勇一郎のペン・淡彩画5点を出展。また、本展会期中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として各館を巡る「アートライン展スタンプラリー」があわせて実施され、当館も参画し、抽選で当選する景品として当館招待券5枚を提供した。

2 教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①令和6年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

- 「長野県におけるイワナとその増殖について」（担当：関悟志）
- a. 共 催：大町山岳博物館友の会
 - b. 開催日：令和6年4月21日（日）
 - c. 時 間：午後1時30分～午後3時30分
 - d. 場 所：市立大町山岳博物館 講堂
 - e. 対 象：どなたでも 定員40人
 - f. 参加者：40人（一般参加者11人・友の会会員29人）
 - g. 講 師：小松典彦氏（長野県水産試験場研究員）
 - h. 概 要：大町山岳博物館友の会では、博物館との共催事業として、市民や地域住民、友の会会員向けて、総会にあわせて例年、記念講演会を企画している。毎回、各分野に精通した講師を招いて、北アルプスとその山麓の自然や歴史などに関する講演を行うことで、地域の自然や歴史への興味・関心を高めていただくとともに、友の会活動について広く知っていただく機会としている。

本年度は、長野県水産試験場研究員の小松典彦氏を講師にお招きし、「長野県におけるイワナとその増殖について」と題して、講演いただいた。信州の溪流を代表する魚であるイワナの生態や生息状況、現地での増殖の取り組みなど、これまでの研究にもとづく貴重なお話をお聞かせいただいた。

i. 所 見：事前申込は応定員を下回っていたが、申込せずに直接当日参加が複数あり、結果として定員枠通りの参加者となった。このことや、アンケート結果から、事業目的の対象者の興味・関心をひくことができたと考える。ただし、友の会総会記念講演会ということから、主催・共催の位置付け、企画・準備を含む実施手法や講師謝礼の支出元を含むコスト、実施主体の妥当性については今後検討が必要と考える。

②ふぞくえんまつり（担当：・千葉悟志・岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純）

a. 会 期：令和6年5月1日（水）～5月5日（日）

b. 会 場：市立大町山岳博物館 付属園

c. 参加者：延べ1,701人（子ども～大人）

（内訳）「クイズ&スタンプラリー」 372人 5月1日～5日

「動植物観察ツアー・おおまびょんと遊ぼう」 73人 5月3日～5日

「ライチョウガイド」 1302人 5月1日～5日

d. 概 要：展示動植物を解説しながら園内を巡る「動植物観察ツアー」、小さい子供にもカモシカに親しんでもらう「おおまびょんと遊ぼう」、展示動物を題材とした「付属園クイズ&スタンプラリー」、ライチョウについてより詳しく知っていただくための「ライチョウガイド」の4つの催しを実施した。山岳博物館では、開館間もない昭和28年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成9年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかる市民対象の各種催しを実施する期間を「付属園まつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所 見：「クイズ&スタンプラリー」については、前年から変更し、クイズだけでなくスタンプラリーも併せて開催した。その結果、子どもから大人まで幅広く参加者が見られ、スタンプは子どもに人気があり、学ぶ要素のあるクイズは、大人の参加者も積極的に参加しており、参加者が昨年度よりも増加した。ライチョウの見学に多くの来館者が見えられたことから、随時解説を行う「ライチョウガイド」は保全への関心や当館の事業を理解していただくうえで有効であったと考える。更に、「動植物観察ツアー」では、高山植物や飼育動物についてじっくりと解説することで、付属園の役割にとどまらず、動植物を身近に感じてもらう機会となり、自然環境保全への入り口としての機能を果たした。全体として催しが関連を持ちながら実施することができた。

ア 「クイズ&スタンプラリー」

付属園の展示動物を題材にしたクイズやスタンプを探しながら付属園を回ってもらうことで、楽しみながら動物について学ぶ機会とともに、じっくり観察してもらうことで見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日 5月1日（水）～5月5日（日）

イ 「動植物観察ツアー」

来園者と一緒に付属園の飼育・栽培動植物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時 5月3日（金・祝）～5月5日（日） 各日 11時00分～、14時30分～

ウ 「おおまびょんと遊ぼう」

カモシカをモチーフとしたおおまびょんが動物観察ツアーの後に登場。小さい子供にも付属園やカモシカに親しんでもらう機会とする。

・開催日時 5月3日（金・祝）～5月5日（日） 各日 11時30分～、15時00分～

エ 「ライチョウガイド」

一般公開しているライチョウ舎において、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全について理解を深めていただく機会とする。

- ・開催日 5月1日（水）～5月5日（日）

③自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウォッチ「セミのぬけがらを探せ！ in 大町」（担当：清水博文）

（「長野県環境保全研究所 令和5年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

- a. 開催日：令和6年8月3日（土）
- b. 共 催：長野県環境保全研究所
協 力：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット
- c. 場 所：大町公園周辺及び当館講堂
- d. 参加者数：小人5人・大人4人 合計9人
- e. 概 要：セミの抜け殻を探したり、じっくり観察しながら種を同定することで、楽しみながら身近な自然を学ぶ機会を提供する。また、毎年繰り返し実施することで、地球温暖化がセミに与える影響を調査する。本年度も大町市以外に長野県下5ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。
- f. 所 見：20人の募集のところ、14人の応募があったが、体調不良による欠席者が多かった。毎年楽しみにして参加されている中学生の家族が2組いた。この取り組みは、温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持ってもらうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

④大町自然探検隊（担当：岡本真緒）

a. 開催日等

- ・10月13日（日） 地学教室「河原の石ころをさがそう」（担当：竹村健一） 参加人数8人

b. 場 所：大町市内および周辺地域

c. 概 要：大町市内周辺には山岳・里山・市街地・河川・湖・溪流などのバリエーション豊かな自然環境が存在し、それらを学ぶイベントを発案した職員が1人が実施してきた経緯がある。担当者は悩みながらもイベントを開催してきたと思われるが、当然、内容に偏りが生じ、参加者も少ないので行われてきたと推測される。前年度は各分野を担当する職員が各自で担当したが、本年度は異動による人員の削減等に掛かり、規模を縮小した。

d. 所 見：職員の異動による影響を受けやすく、本年度は学芸員の人員が減少した影響で、各担当職員の負担が大きくなつたことから、今後、本事業の継続については検討する必要があると考えられる。

⑤研究報告

「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2024」さんぱくゼミナール（担当：千葉悟志）

- ・開催日：令和7年3月8日（土）

- ・時 間：午後1時30分～午後4時

- ・場 所：市立大町山岳博物館 講堂

- ・参加人数：大人28人（定員各回30人）

・研究報告：「テフラよもやま話」（竹村）、「農具川に棲む生き物」（岡本）、「山に降る雪は減っていない」（鈴木）、「志村寛（号・鳥嶺）宛 牧野富太郎筆の書簡」（関）

・概 要：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすく伝えることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で企画・開催。

当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行う。

本催しは冬期間の博物館利用者数の増加へつながるように、これまで前期・後期の2回にわたつて2週連続で実施するスタイルとしてきたが、本年度は1回で実施した。

(2) 学校との連携・融合 (調整：千葉悟志)

期 日	内容 (館外の実施場所)	対象校・学年など	人数 (人)	指 導
5月 29日	学校連携授業「市の様子」	大町東小学校 3年 (1クラス)	15	関
6月 5日	学校連携授業「市の様子」	大町北小学校 3年 (2クラス)	44	関
6月 11～12日	職業体験学習	八坂小中学校 7年	1	千葉
6月 28日	「総合的な学習の時間」	八坂小中学校 7年・9年	4	竹村・岡本
7月 2日	青木湖キャンプ自然観察指導 (大町市)	白馬南小学校 5年 (1クラス)	19	千葉・関
7月 4日	青木湖キャンプ自然観察指導 (大町市)	大町南小学校 5年 (2クラス)	45	関・岡本
7月 7日	自然観察指導 (大町市)	八坂小中学校	6	清水・竹村
7月 12日	「総合的な学習の時間」	大町中学校 3年	21	千葉
7月 18～19日	職業体験学習	高瀬中学校 2年	2	千葉
7月 18日	青木湖キャンプ自然観察指導 (大町市)	大町西小学校 5年 (2クラス)	44	関・岡本
8月 2～3日	異業種体験学習	穂高西中学校教諭	1	関
8月 22～23日	職業体験学習	美麻小中学校 8年	1	千葉
11月 6日	学校連携授業「土地のつくり」(大町市)	大町東小学 6年 (1クラス)	18	竹村
11月 19日	学校連携授業「人の体のつくりと運動」	大町南小学校 4年 (2クラス)	47	岡本
11月 22日	学校連携授業「きょう土を開く」	大町北小学校 4年 (2クラス)	43	関
11月 22日	学校連携授業「人の体のつくり・ライチョウのくらし」	白馬北小学校 4年 (2クラス)	46	岡本
実施回数：16回 (延べ20日)		学校数：11校	人数合計：357人 (延べ362人)	

【小学校】

①「学校との連携授業」(市内小学校の博物館活用事業) (調整：千葉悟志)

a. 実施日：上記のとおり ※6～2月の間に、市内3小学校：5回実施。(市外1小学校：1回実施)

b. 場 所：理 科：2階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園 ほか
社会科：1階「山と人」、3階「展望ラウンジ」

c. 参加者数：市内小学生：168人 (内訳：3年生59人、4年生90人、5年生19人)
市外小学生：46人 (4年生：46人)

※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. 概 要：学校教育と社会教育との連携・融合 (学社連携・融合) 推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業(動物)を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成24年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同

時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

- ア 連携授業 プログラム1 理科・4学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
(学習素材:ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ)
- イ 連携授業 プログラム2 社会科・6学年「土地(大地)のつくりと変化」
(学習素材:化石、北アルプスの地形・地質)
- ウ 連携授業 プログラム3 社会科・3学年「わたしたちのまち みんなのまち 一市の様子」
(学習素材:床面地図(空からマップ)、3階からの展望(市街地周辺)など)
- エ 連携授業 プログラム4 社会科・3学年「かわってきた人々のくらし 一古い道具と昔のくらし」
(学習素材:山や雪にかかわる古い道具(民具)の展示)
- オ 連携授業 プログラム5 社会科・4学年「きょう土を開く(きょう土に伝わる願い)」
(学習素材:地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎)
- カ 連携授業 プログラム6 社会科・4学年「わたしたちの県 一県の広がり・特色のある地いきと人々のくらし」
(学習素材:床面地図(空からマップ)、3階からの展望(北アルプス後立山連峰周辺)など)
- e. 所 見: 29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざしたが、コロナ禍以降希望校が減少傾向にあり、異動時の申し送りの欠如や学校を通した周知徹底がされていないことも原因の一つとかんがえられる。一方、近隣町村に転出した教諭から希望が寄せられ、市外でも可能な限り受け入れ、実施した。

②学校行事の自然観察指導(担当:千葉悟志)

- a. 実施日:上記のとおり ※7月の間に、市内2小学校:2回実施。(市外1小学校:1回実施)
- b. 場 所:青木湖キャンプ場(大町市)
- c. 参加者数:市内小学生 延べ108人(市内:89人、市外:19人) ※このほか各小学校教員先生方の引率あり
- d. 概 要:キャンプ場に4か所クイズを設置し、グループ毎に1枚の解答用紙を配布し、協力して解くクイズラリー。クイズは青木湖の成り立ち、湖周辺の遺構、縄文時代のくらし、青木湖周辺にすむ動物や環境問題を取りあげ、級友や先生といっしょに考える機会とする目的として実施。

【中学校】

①博物館活用事業(調整:千葉悟志)

- a. 実施日:上記のとおり ※6~7月の間に、市内2中学校:2回実施。
- b. 単元名:総合的な学習の時間
- c. 参加者数:市内小学生:168人(内訳:1年生2人、2年生21人、3年生2人)
※このほか各小学校教員先生方の引率あり
- d. 所 見:令和6年度は博物館見学のほか、植物、動物及び地質関係の質問に学芸員・専門員が対応した。

②就労(職業)体験学習(担当:千葉悟志)

- a. 受入校および人数:大町市立八坂小・中学校8年1名(6月11日~12日)・池田町立高瀬中学校2年2名(7月18日~19日)・大町市立美麻小中学校8年2名(8月22日~23日)
- b. プログラム2:学芸員・専門員の業務体験(展示や収集保管、受付、動物飼育を体験)
- c. 概 要:市内をはじめ近隣町村の中学校および高校の希望校より各校2名までを受け入れ、2日間、体験学習を実施。
- d. 所 見:1日目に博物館の展示の意図を知るとともに、収蔵庫などのバックヤードの見学、収集保管では、植物標本の作製や昆虫標本の整理を行った。2日目は、午前に付属園の展示動物や傷病鳥獣の体調管理にかかる観察や飼育、午後に受付において来館者へ館内の概要、導線の説明を行い、一通りの業務の体験をしていただいた。

③異業種体験学習（学校教諭）

- a. 受入校および人数：穂高西小学校 1 名（8 月 2 日～3 日）
- b. プログラム 2：学芸員・専門員の業務体験（展示や収集保管、受付、動物飼育を体験）
- c. 概要：市内をはじめ近隣町村の学校教諭による異業種体験の受け入れ。
- d. 所見：採用 2 年目及び 10 年目の教員に課せられている異業種体験をこれまでにも受け入れてき
たが、令和 6 年度は 1 名を受け入れた。学校との連携・融合を図る上で教諭との相互理解が必要不可欠であることから、引き続き受け入れを継続したい。

（3）博物館実習の受入（調整：岡本真緒）

期日	実習者	人員	指導
7 月 30 日（火） ～8 月 4 日（日） ※計 6 日間	信州大学 理学部 4 年生 日本大学 生物資源科学部 4 年生 東京農業大学 農学部 4 年生 八洲学園大学 生涯学習学部 2 名	5 人	鈴木・清水・千葉・ 関・岡本・竹村・家 城

博物館法施行規則第 2 条（博物館実習）第 1 項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由として、山岳や動植物などに興味関心を持っていたからであるという声が多かったことから、「山岳」をテーマにした博物館である当館が実習先として学生に選ばれたと考えられる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の 1 日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付した。今年度はコロナ禍で中断していた、実習生が行う、来館者に対するスポットガイドの実施を再開した。学芸員は多種多様なお客様に接する機会が多いため、学芸員の仕事の一環である幅広い層のお客様に適した柔軟な対応を意識していただくきっかけとなり、効果的だったと考えられた。

（4）学習会等への協力（調整：千葉悟志）

期日	内容（館外の実施場所）	主催	人数（人）	指導
5 月 5 日	自然観察会（大町市）	大町市文化財センター	14	千葉
5 月 10 日	館内展示説明	19 市選挙管理委員会	30	清水・岡本
5 月 12 日	冒頭説明	野辺公民館	8	関
5 月 23 日	館内展示説明	RKB ラジオ信州さわやか ツアーア	15	関
5 月 25 日	スペシャルガイド養成研修会	北アルプス国際芸術祭実行委 員会	40	関
5 月 25 日	出張講座（大町市）	塩の道ちょうじや	17	千葉
5 月 25 日	出張講座（大町市）	大町ロータリークラブ	26	鈴木
5 月 25 日	出張講座（大町市）	北アルプス青年会議所	30	竹村
6 月 2 日	冒頭説明	アイ・ツーリスト 城友会	16	岡本
6 月 10 日	自然観察指導	大町西小学校自然探検クラ ブ	16	清水
6 月 21 日	冒頭説明	長野県大町岳陽高等学校 1 年（5 クラス）	120	千葉

期 日	内容 (館外の実施場所)	主 催	人數 (人)	指 導
6月 22 日	出張講座 (大町市)	塩の道ちょうじや	18	関
7月 13 日	出張講座 (大町市)	大町山岳博物館友の会 サークル	6	千葉
7月 21 日	出張講座 (大町市)	大町山岳博物館友の会	16	千葉・竹 村・関
7月 24 日	説明案内	市スポーツ課	20	関
8月 4 日	自然観察指導	長野県山岳総合センター	22	岡本
8月 25 日	館内説明	育てる会八坂美麻学園	12	関
8月 27 日	冒頭説明	ワールド航空サービス	11	岡本
8月 27 日	自然観察指導	長野県大町岳陽高等学校 1年 (2 クラス)	76	千葉
8月 31 日	講演会 (大町市)	長野県山岳総合センター	25	関
9月 2 日	自然観察指導 (白馬村)	白馬北小学校 4年 (2 クラ ス)	47	千葉
9月 7 日	冒頭説明	佐久教育振興会	25	岡本
9月 8 日	ギャラリートーク (大町市)	信濃美術会	12	関
9月 14 日	文化財講座	長野県植物研究会	25	千葉
9月 27 日	自然観察指導 (大町市)	白馬北小学校 6年 (1 クラ ス)	36	竹村
9月 29 日	探訪解説 (安曇野市)	大町山岳博物館友の会	18	関
10月 2 日	企画展・展示説明 (科博・つくば) ～3 日	山博友の会「花めぐり紀 行」	5	千葉
10月 6 日	冒頭説明	七日市場の歴史を学ぶ会	30	岡本
10月 8 日	冒頭説明	道新観光	10	千葉
10月 19 日	館内展示説明	篠ノ井公民館	22	関
10月 20 日	館内展示説明	ワールド航空サービス	17	千葉
11月 8 日	館内展示説明	英語全国通訳士	8	岡本
11月 10 日	自然観察指導 (大鹿村)	山博友の会「ボランティア の会」	20	竹村
11月 12 日	講演	大町市環境保全推進委員 連絡会議	30	竹村
11月 23 日	講演・巡査 (～24 日)	日本山の科学会	50	鈴木・関・ 竹村
12月 3 日	講座	長野県林業大学	40	鈴木・岡本
1月 15 日	館内展示説明	県学習旅行誘致推進協議 会研修	14	関
1月 26 日	研修	山博友の会「ボランティア の会」	16	竹村
1月 30 日	館内展示説明	長野県白馬高等学校 2 年	10	関
2月 12 日	講演	水の輪プロジェクト	32	鈴木・竹村
2月 24 日	自然観察指導 (大町市)	大町山岳博物館友の会	14	竹村
実施回数：41 回 (延べ 43 日)		件数：35 団体	人數合計： 1,019 人	

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

①第23回北アルプス雪形まつり「雪形ウォッキング」(担当：関悟志)

a. 主 催：第23回北アルプス雪形まつり実行委員会 (事務局：生涯学習課生涯学習・青少年係内)
(「雪形ウォッキング」担当：市立大町山岳博物館)

- b. 協力：あづみ野雪形研究会 大町市観光協会
- c. 開催日：令和6年5月19日（日）
- d. 時間：午前6時45分～午後12時30分
- e. 場所：大町市～白馬村～松川村・池田町～安曇野市豊科の各観察ポイント（マイクロバス乗車）
※大町市役所正面玄関前 集合・解散
- f. 対象：どなたでも 定員18人
- g. 参加費：高校生以上500円（中学生以下無料）
- h. 参加者：15人
- i. 体制：「雪形ウォッチング」担当
 - ・実行委員 関悟志（山岳博物館 学芸員）※企画・準備、当日の引率・案内
 - ・協力 宮澤洋介氏（あづみ野雪形研究会 会員）※当日の案内
 - ・協力 大町市観光協会 ※参加募集受付
- j. 概要：雪形をテーマに、春の喜びと郷土への愛情や誇りを共感する文化イベントとして第23回「北アルプス雪形まつり」（主催：雪形まつり実行委員会）が春に開催された。令和6年6月8日（土）に大町市文化会館を会場として行われた「雪形ステージ」に先がけ、5月19日（日）に「雪形ウォッチング」が行われた。当館では例年、雪形まつり実行委員として参画し、「雪形ウォッチング」を担当している。今年も、北アルプスに伝わる伝統的な雪形を、北は白馬村から南は安曇野市豊科まで、雪形見学地として最適な場所を訪れ、雪形伝承について学んでいただくとともに、安曇野の歴史風土全般もガイドし、当地を知っていただく機会となった。
- k. 所見：雪形まつり全体がステージ発表部分を中心として実施されている現状においては、雪形ウォッチングが別の事業のような印象を受ける方もいるようであり、雪形まつり全体での一体感ある催しとして工夫しながら実施できれば良かったと考える。例年、県外からの参加者もいることから、本年度は雨天の順延日を設けず、雨天時は同日に場所と時間を変更して別メニューで実施することとしたが、通常実施と雨天時の2通りのプログラムを準備する必要があった。また、コスト面について、事業実施に要する実際の経費に対し、適切な参加費あるいは講師謝礼金額の設定を検討する必要がある。

②第11回 信州・大町 山の子村キャンプ [福島の子どもも保養プログラム]（調整：清水博文）

本年度も福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州・大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わり、プログラムのサポートや資材等の支援を博物館として行う予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のために、本年度は中止とした。

- a. 主催：信州・大町 山の子キャンプ実行委員会（実行委員長 荒山雄大氏）
- b. 共催：大町市教育委員会（主管：市立大町山岳博物館）
- c. 後援：大町市、小形和夫氏、長野県労働金庫大町支店、北アルプス医療センターあづみ病院 ほか

（5）博物館資料の特別利用（調整：関悟志）

①館内利用 16件（このほか山岳図書資料の館内利用 24件）

②館外利用 31件 ※内訳は下記のとおり（このほか山岳図書資料の館外利用3件（資料点数5点）、長期貸出による館外利用4件）

期間	目的	利用者	利用資料・点数
4月5日	ラジオ番組 SNS・HP掲載	NHKラジオセンター	ライチョウの写真データ4点
4月5日～	SNS掲載	個人（NHKラジオ番組契約キャスターX（旧Twitter））	ライチョウの写真データ3点
6月～	書籍掲載	大阪大学山岳会	『北アルプス登山史資料2』掲載の記録4点（転載）
7月6日～9月1日	企画展示	埼玉県立川の博物館	北京動物園に贈られたカモシカの写真データ2点

期間	目的	利用者	利用資料・点数
4月下旬～5月上旬	新聞掲載	大糸タイムス社	雪形の写真・図・解説データ一式
4月～9月24日	企画展示に 係る研究等	長野県立美術館	研究紀要掲載 美術資料関係 写真データ5点
7月30日～11月4日	企画展示	国立科学博物館	ライチョウ剥製標本など6点
5月31日～ 令和7年5月31日	ウェブサイ ト掲載	能登印刷	館外観写真データ1点
5月25日	自然観察会 資料	北アルプス青年会議所	カモシカ写真データなど7点
7月20日～9月24日	企画展示	長野県立美術館	足立源一郎使用スキーなど 49点
6月3日	ウェブマガ ジン掲載	まちノベイト	館外観写真データなど2点
8月5日	テレビ番組 放送 (NHK教育 育)	アマゾンラテルナ	雪形の写真・図データ21点
7月～	ウェブサイ ト掲載	日本アルプスガイドセ ンター	館外観、百瀬慎太郎関係写真 データなど23点
6月末～7月中旬	会報掲載	個人(ネットワーク播隆 会員)	上條嘉門次展示コーナー写 真データ1点
7月30日	新聞掲載	中日新聞松本支局	ライチョウ写真データ1点
8月30日～11月30日	学術研究(神城地 域の地質調査)	信州大学震動調査グ ループ	岩石資料2点
8月28日～	SNS掲載	さくら国際高等学校	付属園写真など一式
8月31日～9月27日	企画展示	信濃大町美術展実行委 員会	絵画資料5点
9月11日～	書籍掲載	個人(山岳ジャーナリスト)	ウェストン夫人の写真データ 2点
9月13日～	ウェブサイ ト掲載	信濃おおまち みずのわ プロジェクト	町川の写真データ1点
9月18日～10月2日	テレビ番組 放送	TBSテレビ	ライチョウの写真データ2点
10月25日～	ウェブサイ ト掲載	国立科学博物館	ライチョウ剥製標本の写真 データなど4点
10月29日～	学術雑誌掲 載	個人	百瀬慎太郎関係写真データ 2点
11月13日	テレビ番組 放送	SBC信越放送	ライチョウの動画・写真データ 一式
12月上旬～中旬	新聞掲載	中日新聞松本支局	ライチョウの写真データ3 点
12～1月	テレビ番組 放送	個人(大町市観光ボラン ティア)	中部山岳鳩協会関係写真 データ2点
令和7年6月8～22日	企画展示	東京農業大学山岳部山 岳会(0B)	松濤明関係写真データ44点
12月17日	テレビ番組放送 (テレビ朝日)	メディアブルボ	ムササビ骨格標本の写真 データ1点
令和7年4月～	SNS掲載	松本あさま温泉 錦の湯 地本屋	雪形の写真・図データなど一 式

期間	目的	利用者	利用資料・点数
令和7年7月～8月	環境学習講座	個人	ムササビ骨格標本の写真データ1点
令和7年5月16～18日・7月3～5日	企画展示	日本渓流JP翠渓会 日本狼之棲館	ヤマイヌの頸の写真データ一式

③長期貸出 4件

期間	目的	利用者	利用資料・点数
昭和55年7月21日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本2点
昭和56年7月1日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製2点
平成18年11月15日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製1点
平成28年4月28日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴1点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

(6) 山岳図書資料館の利用 (担当: 関悟志)

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外		件数	件数	
310日	4人	7人	15人	24件	3件	5点	計32時間5分
計26人			計27件				

※令和4年度利用者数の56人に対して、令和5年度の利用者数は26人となり、対前年度比46%。

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む。

(7) 各種照会 (レファレンス) (調整: 関悟志)

社会教育施設や研究機関、個人等からの学芸関係の各種照会 (レファレンス) に対する参考調査業務として、各分野の学芸員や専門員等が回答して情報提供を行った件数は次のとおり。なお、ここに集約した各種照会の件数は、軽微なものを除いた主な学芸関係のみの実績である。

合計 145 件 (自然科学系 56 件、人文科学系 90 件、その他 1 件) ※内訳の各分野の件数は重複の場合あり

※内訳は下記のとおり (上記内訳の各分野の件数は重複の場合あり)

受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項 (概要)
4月3日	個人	来館	その他	人文(民俗)	民具資料について
4月7日	個人	来館	その他	自然(その他)	中綱湖周辺の自然について
4月9日	個人	来館	個人学習等、学術調査研究	人文(歴史)	ギャチュンカン遠征隊資料について
4月13日	長野県立美術館	電子メール	業務	人文(美術)	山のポスターの山座同定について
4月16日	個人	電話	学術調査研究	人文(歴史)	松濤明関係資料について
4月17日	個人	電話	個人学習等	自然(昆虫)	クモマツマキチョウの分布について
4月17日	大町エネルギー博物館	来館	業務	自然(動物)	アカガエルの同定について
4月19日	個人	電話	学術調査研究	人文(歴史)	収蔵する山岳図書資料について
4月20日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	黒部ダム周辺の植物について
4月23日	個人	来館	個人学習等、学術調査研究	人文(歴史)	ギャチュンカン遠征隊資料について
4月23日	大糸タイムス社	電話、来館	業務	人文(民俗)	雪形について
5月1日	個人	来館	学業	自然(その他・人文その他)	展示等について
5月1日	個人	電話	その他	人文(その他)	収蔵する山岳図書資料について
5月2日	富山県立山博物館	電子メール	業務、学術調査研究	人文(歴史)	ウェストン等について
5月14日	新潟県立植物園	電子メール	業務、学術調査研究	自然(植物)	カキツバタの種子形成について
5月15日	個人	電子メール	個人学習等	自然(昆虫)	キバネツノトンボについて
5月17日	個人	電話	業務	人文(民俗)	雪形について
5月17日	中日新聞	来館	学術調査研究	自然(気候)	気候変動について

受付日	照会者	方法	目的	分 野	照会事項(概要)
5月22日	個人	電話	学術調査研究	人文(歴史・美術)	画家 丸山尚について
5月28日	個人	電話	学術調査研究	人文(歴史)	市内の自然災害史について
6月1日	市企画財政課	電子メール	業務	人文(歴史)	町川の古い写真について
6月1日	個人	来館	個人学習等	自然(地質)	拾った石の種類について
6月5日	個人	電話	その他	人文(歴史)	志村鳥嶺について
6月9日	個人	来館	個人学習等、学術調査研究	人文(歴史)	佐々成政さらさら越え伝承について
6月11日	大町南小学校長	電話	業務	人文(民俗)	雪形について
6月12日	個人	電話	個人学習	自然(鳥類)	北信におけるシノリガモの繁殖について
6月12日	個人	電話・来館	その他	人文(その他)	山岳図書資料について
6月13日	NHKテレ番組制作会社	電話	業務	人文(民俗)	爺ヶ岳の種まき爺さんの雪形について
6月13日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	山岳に関する業界新聞について
6月14日	個人	来館	個人学習	自然(爬虫類)	シロマダラの同定
6月15日	個人	電話	個人学習	自然(哺乳類)	ニホンカモシカの生態について
6月18日	新潟県立植物園	電子メール	業務	自然(植物)	ハナノキとイヤリトリカブトの結果時期について
6月18日	個人	電話	個人学習等	人文(その他)	山座同定について
6月18日	個人	来館	個人学習等	人文(その他)	3階展示室の山並説明写真について
6月22日	個人	来館	個人学習	その他(管理)	耐震化・照明などについて
6月22日	個人	電話	その他	自然(哺乳類)	シカの角について
6月22日	個人	来館	個人学習	自然(鳥類)	鳥の同定 アカショウビン
6月26日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	上原遺跡について
6月29日	つり人社	電子メール	業務	自然(魚類)	大川沢のイワナ
7月2日	個人	来館	個人学習	自然(昆虫)	鷹狩山のクワガタについて
7月2日	戸隠地質化石館	電子メール	業務	自然(植物)	コマクサの生活史について
7月2日	豊科郷土博物館	電子メール	業務	自然(植物)	ユクノキ・フジキの開花時期について
7月4日	個人	電話	個人学習	自然(鳥類)	カモの卵について
7月4日	個人	電話	個人学習	自然(鳥類)	ライチョウの雛について
7月4日	個人	来館	学業	人文(歴史)	展示資料の資料情報について
7月4日	BS朝日番組制作会社	電話	業務	人文(歴史)	上條嘉門次関係資料について
7月4日	個人	電話	学術調査研究	人文(民俗)	農具の収蔵資料について
7月17日	個人	来館	学業	自然(地質)	展示資料の資料情報について
7月18日	個人	電話	学業	人文(民俗)	展示資料の資料情報について
7月21日	個人	電話	その他	自然(鳥類)	保護動物について
7月22日	個人	現地	個人学習	自然(植物)	家のまわりの雑草の名前について
7月23日	個人	電子メール	学術調査研究	人文(その他)	俳画家 近藤翠嵐について
7月24日	個人	電話	個人学習	自然(動物)	付属園の動物について
7月25日	個人	電源	個人学習	自然(植物)	ササユリの開花時期について
7月25日	日本山岳会富山支部富山支部	来館	学術調査研究	人文(歴史)	ザラ峠越えの古道について
7月27日	個人	来館	個人学習	自然(動物)	鳥の羽根について
7月30日	個人	来館	その他	人文(その他)	寄贈資料の確認について
7月31日	個人	電子メール	その他	人文(歴史)	展示・収蔵する山内ピッケルについて
8月1日	個人	電話	個人学習	人文(歴史)	ウェストンの登山当時の地形図について
8月1日	個人	来館	個人学習	人文(その他)	八峰キレット付近の山岳について
8月1日	市建設課	電話・電子メール	業務	人文(その他)	山岳の名称・標高等について
8月5日	個人	電子メール	個人学習	自然(昆虫)	特定外来生物について
8月6日	個人	来館	その他	自然(地質)	糸静線が見える露頭があるか
8月9日	個人	来館	個人学習	自然(鳥類)	鳥の羽について
8月9日	個人	来館	個人学習	自然(鳥類)	ライチョウについて
8月9日	個人	来館	個人学習	自然(鳥類)	ライチョウについて

受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項(概要)
8月10日	個人	電話	夏休み自由研究	自然(動物)	博物館の飼育動物について
8月12日	個人	電話	個人学習	自然(動物)	ニホンカモシカについて
8月13日	個人	来館	学業、学術調査研究	人文(歴史)	山小屋の建築について
8月13日	富山県[立山博物館]	電話	業務、学術調査研究	人文(歴史)	初期外国人登山者について
8月15日	ランドネ	電子メール	業務	自然(植物)	コマクサについて
8月15日	個人	来館	学術調査研究	人文(歴史)	高瀬軌道について
8月15日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	東京徒步渓流会会報などについて
8月16日	南アルプス市[安山岳館]	電話	業務	人文(その他)	山岳図書資料館について
8月21日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	北アルプスの山岳文化史について
8月21日	個人	電話	夏休み自由研究	自然(昆虫)	クモマツマキチョウの保護活動について
8月23日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	松濤明の手帳について
8月25日	個人	来館	学業	人文(歴史)	家印・屋号について
8月25日	個人	来館	学業	人文(民俗)	石仏について
8月25日	個人	来館	学業	人文(その他)	美麻地区の風景について
8月25日	個人	来館	学業	自然(地質)	河原の石の原石はどこに露出しているか
9月3日	個人	電話	その他	人文(その他)	農機具などの民具について
9月3日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	アズミノヘラオモダカについて
9月6日	個人	来館	個人学習等	人文(美術)	ウッドシャフトのピッケルについて
9月11日	個人	電話	学術調査研究、業務	人文(歴史)	ウェストン夫人の登山服装について
9月11日	にっぽん百山[番組制作会社]	電話	業務	人文(その他)	立山連峰の範囲について
9月12日	テレビ朝日番組制作会社	電話・電子メール	業務	人文(その他)	富士山頂からの北アルプス方面の山並について
9月16日	個人	電話	業務	自然(植物)	オニオオノアザミの標本について
9月19日	個人	電話	その他	人文(その他)	美術資料(書)について
9月19日	NHK BS番組制作会社	電話	業務	人文(歴史)	大正登山ブームや小林喜作などについて
9月19日	個人	電子メール	学術調査研究	人文(歴史)	古写真(絵葉書)の人物同定について
9月19日	個人	来館	その他	人文(歴史)	小林喜作の展示資料について
9月20日	砂防フロンティア整備推進機構	電話・電子メール	業務、学術調査研究	人文(歴史)	手塚順一郎撮影の写真等について
9月22日	個人	電子メール	その他	人文(歴史)	山岳図書資料について
9月23日	NHK名古屋	電子メール	業務	自然(植物)	高山植物のなまえについて
9月25日	abn長野朝日放送	電話	業務	人文(歴史)	上條嘉門次の資料について
10月1日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	ヘビについて
10月2日	NHK名古屋	電子メール	業務	自然(植物)	高山植物の果実について
10月4日	個人	来館	個人学習等	自然(地質)	河原の石の原石の露出場所
10月4日	個人(2人)	来館	個人学習等	自然(昆虫)	アリについて、昆虫食について
10月4日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	保護動物について
10月7日	NHK にっぽん百名山[番組制作会社]	電子メール	業務	自然(動物)	高山植物のなまえについて
10月12日	個人	電話	個人学習等	自然(昆虫)	10月の昆虫採集について
10月16日	砂防フロンティア整備推進機構	電話	業務、学術調査研究	人文(歴史)	針ノ木新道について
10月16日	個人	電子メール	学術調査研究	人文(民俗)	イッポンゾリについて
10月18日	早稲田大学岳友会(山岳部OB会)	電話	学術調査研究、その他	人文(歴史)	鹿島槍ヶ岳積雪期初登頂について
10月19日	個人	電話	その他	人文(美術)	山岳画家・山下品蔵の作品について
10月23日	富山県[立山博物館]	来館	学術調査研究、業務	人文(歴史)	ウェストンら外国人登山者、針ノ木新道について
10月23日	NHK BS番組制作会社	電話	業務	人文(歴史)	アルプス銀座の由来等について
10月25日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	鳥の剥製の作り方について
11月1日	NHK BS番組制作会社	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	小林喜作について

受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項（概要）
11月1日	戸隠地質化石館	電子メール	業務	自然（植物）	サクラソウの訪花昆虫について
11月3日	個人（2人）	来館	個人学習等	自然（動物・昆虫）	骨格標本の作り方・アリの同定
11月7日	個人	電話	学術調査研究	人文（歴史）	エルク製ピッケルについて
11月9日	個人	来館	学業	自然（地質）	岩石の鑑定
11月20日	BSテレ東番組制作会社	電話	業務	人文（歴史）	上高地の写真について
12月1日	個人	電話	個人学習等	人文（歴史）	企画展「博物学と登山」（渡邊敏）について
12月4日	個人	来館	個人学習等	人文（歴史）	小林喜作、遠山品右衛門らについて
12月5日	東京都復興記念館	電話	学術調査研究、業務	人文（美術）	画家 漆畠廣作の著作権継承者について
12月6日	個人	電話	その他	人文（その他）	山岳図書資料について
12月11日	北アルプス展望美術館	電話	学術調査研究、業務	人文（その他）	陶製品（大塩焼）について
12月17日	BSテレ東番組制作会社	電話	業務	人文（歴史）	播隆、小林喜作等について
12月20日	個人	来館	個人学習等	人文（民俗）	カナカンジキについて
12月24日	個人	電話	個人学習等	人文（歴史）	山名由来について
1月9日	錦の湯 地本屋	来館	業務	人文（民俗）	雪形について
1月18日	個人	来館	個人学習等	人文（歴史）	対山館について
1月25日	個人	電話	個人学習等、学術調査研究	人文（歴史）	廃刊となった山岳雑誌について
1月28日	個人	電子メール	学術調査研究、業務	人文（歴史）	岩魚留小屋や徳本峠道の文献等について
1月28日	個人	電子メール・電話	個人学習等	自然（植物）	ウスユキソウの形態変異について
2月2日	安曇野市文書館	来館	学術調査研究、業務	人文（歴史）	播隆の資料について
2月5日	個人	来館	個人学習等	人文（その他）	大町市の範囲について
2月13日	個人	電子メール	個人学習等、業務	人文（民俗）	イッポンゾリについて
2月27日	個人	電話	個人学習等	自然（動物）	傷病鳥獣について
3月7日	個人	来館	個人学習等	人文（歴史）	百瀬慎太郎レリーフの拓本について
3月9日	個人	来館	個人学習等、業務	人文（民俗）	イッポンゾリ、カサについて
3月11日	市企画財政課	電話・来館	業務	自然（地質）・人文（歴史）	湯俣水俣出合周辺の岩石・鉱物について
3月12日	NHKラジオ番組	電話	業務	人文（歴史）	1925年当時の登山状況について
3月13日	市社会福祉協議会	電話	業務	人文（民俗）	市内の石仏について
3月19日	個人	電子メール	個人学習等	人文（その他）	鹿島槍ヶ岳の標高等について
3月19日	個人	電子メール	学術調査研究	人文（歴史）	信濃山岳会の山口勝について
3月22日	個人	電子メール	個人学習等	人文（その他）	山岳図書資料について
3月26日	大町幼稚園	来館	授業	自然（昆虫）	蝶の蛹の保管について
3月27日	個人	来館	個人学習等	自然（昆虫）	近年の大町市におけるトンボの記録について
3月28日	三俣山荘	来館	学術調査研究、業務	人文（歴史）	高瀬入の歴史について
3月28日	個人	来館	個人学習等	人文（歴史）	佐々成政について

3 執筆・出版

（1）出版

①出版物

a. 広報誌『山と博物館』（担当：関悟志）

本誌は、当館創立5年後の昭和31年2月20日「やまと博物館」として第1号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成26年3月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝えしようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直して誌面を刷新。第59巻第3号（2014年4月号）から、無料の広報誌として位置づけて発行するこ

ととした。これは平成 27 年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成 26 年 3 月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成 30 年度からは、これまでの月刊から夏・秋・冬・春の年 4 回発行の季刊に変更し、同年度は第 63 卷第 4 号（2018 夏号）から第 64 卷第 1 号（2019 春号）を発行。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様に当館をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第 69 卷第 2 号（2024 夏号）〔発行日：令和 6 年 6 月 25 日〕、第 69 卷第 3 号（2024 秋号）〔発行日：令和 6 年 9 月 25 日〕、第 69 卷第 4 号（2024 冬号）〔発行日：令和 6 年 12 月 25 日〕、第 70 卷第 1 号（2025 春）〔発行日：令和 7 年 3 月 25 日〕を編集・発行した。

各号の発行部数：10,000 部、体裁：A4 判、8 頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

b. 『年報』（担当：降旗孝浩）

『市立大町山岳博物館 令和 5 年度 年報』（発行日：令和 6 年 7 月 25 日、体裁：A4 判、50 頁、単色刷り、PDF）を編集・発行を行い、当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

c. 『研究紀要』（担当：清水博文）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成 27 年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第 10 号』（発行日：令和 7 年 3 月 31 日、発行部数：本誌 400 部、本誌体裁：A4 判・カラー、44 頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイトおよび科学技術情報基盤「J-STAGE」（科学技術情報発信・流通総合システム）にてオンライン版の電子ジャーナル（PDF）として公開中。

②販売中の出版物（調整：清水博文）

現在販売中の当館編纂による出版物は以下の通り。※完売のもの除く（令和 7 年 3 月 31 日現在）

書名	発行先	発行年	備考
H27 年度 企画展 北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	市立大町山岳博物館	平成 28 年	館内にて販売中
北アルプス登山史資料 1—白馬岳周辺登山史—	〃	平成 24 年	〃
H24 年度 企画展 大地はなぞだらけ	〃	平成 24 年	〃
北アルプスの自然と人 展示案内書	〃	平成 28 年	〃
北アルプス誕生と高山植物	〃	令和 4 年	〃
研究紀要 第 4 号	〃	令和元年	〃
研究紀要 第 6 号	〃	令和 3 年	〃
研究紀要 第 7 号	〃	令和 4 年	〃
研究紀要 第 8 号	〃	令和 5 年	〃
研究紀要 第 9 号	〃	令和 6 年	〃
R5 年度 企画展 ホネ展	〃	令和 5 年	〃
R5 年度 企画展 大町と絶滅動物	〃	令和 5 年	〃
R6 年度 企画展 小学校の生きもの探索記	〃	令和 6 年	〃

4 広報・宣伝（調整：関悟志）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただき博物館を利用していただきため、公式ウェブサイトや公式SNSの管理（更新・充実）を行うとともに、各種メディア等による取材・雑誌掲載等を含め、観光施設としての各種照会の対応を行った。

こうした広報・宣伝を行うことで、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただけたる場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、市観光協会や市観光文化課等との連携を強化し、効果的な体制を構築することが急務である。そのためにも将来を見据えた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要である。先ずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

なお、平成30年度以降、印刷・配布を行ってきた年間行事チラシについては、例年、前年度末に翌年度の年間行事予定のチラシを印刷し、当該年度初めに配布していたが、本年度は印刷費の予算が確保できなかつたため、広報誌『山と博物館』2025春号の誌上にて、従来の年間行事予定チラシと同様の体裁によって令和7年度年間催し予定を1ページ全面に掲載して対応した。今後もこのような対応で次年度の年間催し予定を広報する予定。

（1）公式ウェブサイト管理（担当：関悟志）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。 URL : <https://www.omachi-sanpaku.com>

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アートラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。

年 度	ページビュー数（回） (昨年度比)	ユーザー数（人）	備 考
平成26(2014)年度	157,667	22,454	運用開始
平成27(2015)年度	179,795 (114%)	28,503	
平成28(2016)年度	191,864 (107%)	30,550	
平成29(2017)年度	166,611 (87%)	31,090	
平成30(2018)年度	177,668 (107%)		
令和元(2019)年度	199,295 (112%)		
令和2(2020)年度	165,434 (83%)		
令和3(2021)年度	192,329 (116%)	44,695	
令和4(2022)年度	203,970 (106%)	50,476	
令和5(2023)年度	65,020 (32%)	51,007	
令和6(2024)年度	— (—%)	—	アクセス解析サービスの都合で未測定

（2）SNSを用いた情報発信（担当：関悟志）

近年までにSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を用いた情報発信が企業・行政などで積極的に行われており、当市役所内でも文化会館や市民活動サポートセンター等で先行して運用が開始されてきている。当館では令和元年5月から始めているFacebookの運用に加え、令和2年5月からはX(旧twitter)、Instagramの運用を開始している。

現在、主にイベント情報の告知、飼育動物に関する紹介等について情報発信を随時行っている。より効果的な内容や発信体制・頻度などについて検討を続け、随時改善を図っていきたい。

SNS の種別	運用開始年月	フォロワー数※ (前年度比)	年間更新回数 (前年度比)
Facebook 〈博物館用〉	令和元(2019)年 5 月	270 人 (102%)	4 回 (15%)
X(旧 Twitter) 〈博物館用〉	令和 2(2020)年 5 月	1,479 人 (107%)	5 回 (16%)
X(旧 Twitter) 〈付属園用〉	〃	9,185 人 (128%)	406 回 (106%)
Instagram 〈付属園用〉	〃	6,892 人 (220%)	231 回 (132%)

※令和 7(2025)年 3 月末時点の累計

(3) 年間行事チラシ配布 (担当 : 関悟志)

紙媒体として前年度末に印刷を行った、本年度の年間行事予定の情報等を掲載したチラシ(20,000部、A4 判ヨコ両面カラー3 折)について、本年度初めに、年間行事チラシを適宜配布した。前述のとおり、来年度分の同チラシは予算削減により印刷を行っていない。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」(大町市子どもセンター編集・発行)によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

(4) 観光施設としての各種照会等の対応 (担当 : 関悟志)

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

5 大町博物館連絡会 (担当 : 千葉悟志)

大町博物館連絡会は加盟館 11 館で構成。うち、令和 6 年度は 1 館が休館。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務所(事務局)は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館(理事:館長、幹事(事務局員):職員)として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 11 館から会費、日帰り温泉施設 9 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図(2024 年版)」4 万 2500 部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光 PR イベントや旅行業者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を 4 月 1 日から 11 月 30 日まで計画、実施した。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があると思われたが、参加館の減少や費用対効果から来年度以降は取りやめることとした。

なお、本年度の連絡会総会及び理事会は、令和 6 年 6 月 28 日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが開催された。

6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会 (担当 : 関悟志)

安曇野アートライン推進協議会は、当市を含む安曇野周辺の 5 市町村、当館を含む美術館・博物館 16 館で構成。本年度、本会の役員について、会長は安曇野市長、事務局は安曇野市(主管:商工観光スポーツ部観光課)、事務局長は北アルプス展望美術館の倉科智幸氏が担い、当市関係としては市長が副会長、生涯学習課長と当館名譽館長が幹事を務める(任期 2 年の 1 年目)。美術館・博物館部会の役員について、代表館は安曇野市豊科近代美術館が担い、当館が役員館・監事館を務め、安曇野高橋節郎記念美術館が役員館を務める。

本年度、当館では部会の役員会や会議(年間 6 回)に参加し、「安曇野アートラインサマースクール」や「安曇野アートライン」、「安曇野アートラインを巡り AR を体験しよう」に参画した。このほか、アートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業への協力、同部会の職員研修等への参加等を行った。

7 大町山岳博物館友の会 (担当: 関悟志)

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員※・顧問 ※任期: 令和5・6年度

- a. 正副会長 会長: 宮澤洋介 副会長: 丸山優子
- b. 運営部 部長: 川崎 晃 部員: 川崎祐子 (会計担当)、丸山卓哉 (編集担当)、有川美保子、仙波美代子、若林みどり、西田 均、早川伸一、綿内教子
- c. 監査 園田弘美、宮田京子
- d. 事務局 主務: 関 悟志 (博物館)
- e. 顧問 長沢正彦

②会員 (令和7年3月31日 現在)

会員種別	令和6年度 会員数	備考
正会員・個人会員	66人	
正会員・ファミリー会員	45家族 (163人)	
賛助会員	1団体・1人	
名誉会員	1人	
終身会員	2人	
合計	1団体・233人	前年度比 20人減

(2) 運営部

①運営部会 全9回開催 (会場: 山岳博物館 講堂または宿直室)

②主催事業

実施日	行事名・実施場所など	参加者
令和6年4月21日 (日)	令和6年度 大町山岳博物館友の会総会 場所: 博物館 講堂	参加者数 34人
令和6年5月12日 (日)	自然観察会 鷹狩山 小鳥の声を聞く会 場所: 博物館～鷹狩山 講師: 元博物館学芸員 栗林勇太氏	募集人員 20人 参加者数 11人 (参加率 55%)
令和6年7月21日 (日)	高瀬渓谷 湯俣噴湯丘を訪ねる 場所: 湯俣川 湯俣水俣出合付近 講師: 博物館 鈴木名譽館長、竹村専門員、千葉学芸員、関学芸員	募集人員 20人 参加者数 30人 (参加率 150%)
令和6年9月29日 (日)	播隆の道程 —鍋冠山を歩く— (共催: サークル「山岳文化研究会」) 場所: 鍋冠山ほか 講師: 博物館 関学芸員	募集人員 15人 参加者数 17人 (参加率 113%)
令和6年10月20日 (日)	善光寺街道を歩いてみようⅢ —北国西街道編 (第2回) — 場所: 会田宿～青柳宿～麻績宿 講師: 元大町市文化財センター学芸員 清水隆寿氏	募集人員 20人 参加者数 19人 (参加率 95%)
令和7年2月24日 (月・振休)	大町の火山灰を見る 場所: 中山高原 講師: 博物館 竹村専門員	募集人員 15人 参加者数 9人 (参加率 60%)

※参加者数は講師・事務局を除く友の会会員の人数

③共催・協力事業

実施日	行事名・実施場所など	参加者
令和6年4月21日（日）	令和6年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会 主催：博物館／共催：友の会 場所：博物館 講堂 演題：「長野県におけるイワナとその 増殖について」 講師：小松典彦氏（長野県水産試験 場研究員）	募集人員 40人 参加者数 40人 (参加率 100%) ※友の会会員の 参加者 29人
令和6年10月13日（日）	大町自然探検隊 地学教室「河原の石こ ろをさがそう」（協力） 主催：博物館／協力：友の会ほか 場所：竜川の河原 講師：博物館 竹村専門員、友の会 宮澤陽介氏・丸山卓哉氏・丸 山優子氏	募集人員 20人 参加者数 8人 (参加率 40%) ※友の会会員の 参加者 2人

（3）広報・宣伝

- ①会報「ゆきつばき通信」による広報・宣伝活動
- ②山岳博物館が作成する「年間催しのご案内」リーフレットや広報誌『山と博物館』、博物館の公式ウェブサイトを通じた広報・宣伝活動

（4）出版

会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な掲載内容
199号	令和6年6月23日	（行事案内）北アルプス渓谷 湯俣噴湯丘を訪ねる （報告）友の会総会記念講演会、友の会総会、自然観察会 鷹狩山 小鳥の声を聞く会、鳥帽子の会、ボランティアの会、図書紹介
200号	令和6年8月25日	（特別寄稿）200号に寄せて、200号の発行に際して、200号記念寄稿 （行事案内）播磨の道程、善光寺街道を歩いてみようⅢ、博物館からのお知らせ （報告）北アルプス渓谷 湯俣噴湯丘を訪ねる、鳥帽子の会、ボランティアの会、大西浩先生追悼
197号	令和6年12月22日	（行事案内）大町の火山灰を見る企画展、総会・記念講演会、博物館からのお知らせ （報告）播磨の道程、善光寺街道を歩いてみようⅢ、企画展「日本人とエベレスト」関連催し「講演・シンポジウム」、大町自然探検隊 地学教室、日本山の科学会 公開講演会、鳥帽子の会、花めぐり紀行、ボランティアの会

※その他、「お知らせ版」を臨時発行

（5）サークル活動

- ①鳥帽子の会 サークル会員 28人（令和7年3月31日 現在）

活動日	内 容	参加者
令和6年5月25日（土）	木舟城～青木城～唐花見湿原（大町市）、総会	22人
令和6年7月6日（土）	三城牧場～美ヶ原（松本市）	中止
令和6年9月21日（土）	米子大瀑布（須坂市）	18人
令和6年11月9日（土）	三城牧場～美ヶ原（松本市）	8人
令和7年2月16日（日）	小谷村立山スノーシュ（小谷村）	中止

②ボランティアの会 サークル会員 27 人 (令和 7 年 3 月 31 日 現在)

項目	活動日	内 容	参加者
環境整備	4 月 11 日～10 月 27 日 延べ 12 回 (封入実施 2 回)	博物館周辺の環境整備	延べ 82 人
封入	4 月 28 日～3 月 30 日 延べ 5 回	『山と博物館』『ゆきつばき通信』 その他博物館発行の資料等	延べ 42 人
野外整備	4 月 14 日	居谷湿原遊歩道整備	11 人
博物事業協力	5 月 1～5 日	「付属園まつり」受付・ライチョウガイド・館内ガイド	延べ 31 人
	10 月 13 日	「地質教室」サポート	2 人
	3 月 8 日	「サイエンスカフェ」受付	2 人
研修	11 月 10 日	「大鹿村中央構造線博物館」	21 人
	1 月 26 日	「博物館展示解説」 講師：竹村専門員	17 人

③花めぐり紀行 サークル会員 7 人 (令和 7 年 3 月 31 日 現在)

活動日	内 容	参加者
令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	植物さく葉標本づくり	延べ 22 人
令和 6 年 5～6 月	高山植物の植え替え	延べ 20 人
令和 6 年 7～9 月	植物園除草作業	延べ 6 人
令和 6 年 7 月 13 日	親海湿原をめぐる	5 人
令和 6 年 10 月 2～3 日	研修 (国立科学博物館・つくば実験植物園)	5 人

※当サークル及び個人 (2 人) より、博物館に植物標本庫 2 台 (40 万円相当) を令和 6 年 12 月 24 日に寄付した。

④山岳文化研究会 サークル会員 7 人 (令和 7 年 3 月 31 日 現在)

文政 9 (1826) 年の播隆による槍ヶ岳初登山から令和 8 年で二百年の節目を迎えることから、播隆の足跡をたどるため、令和 6 年 9 月 29 日 (日) に友の会と本サークルとの共催による催し「播隆の道程 一鍋冠山を歩く」を実施した。

8 ライチョウ会議 (担当：岡本真緒)

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議 (議長：信州大学 中村浩志特任教授) は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。本年度は静岡での開催が予定されていたが、ライチョウ会議の開催は諸事情により中止された。

9 長野県山岳総合センターとの連携事業 (担当：関悟志)

長野県山岳総合センターとの連携事業として、以下のとおり同センターが主催する催しに当館学芸員が講師として協力した。長野県の教育機関として安全登山の普及・啓発に関する各種事業を行う同センターは、その施設が当館と隣接する。当館は山岳をテーマとした博物館という社会教育施設であることから、同じく山にかかわる機関・施設同士、今後も連携を深めて相互の機能向上につなげたい。

(1) わくわく自然講座「夏休み！たかがり kids キャンプ みずべの生きものさがし」

(担当：岡本真緒)

a. 主 催：長野県山岳総合センター

- b. 協力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和6年8月4日（日）8:30～11:30
- d. 場所：農具川
- e. 参加者：19人（小学生）
- f. 概要：はじめに県山岳総合センターで農具川に生息する魚類、その捕獲方法について学んだ後、農具川が流れ込む水路において、たも網を使った採集を行い、身近な河川である農具川に生息する生き物の観察を行った。

(2) 野外活動講座（講演会）「山岳都市おおまちの歴史」（担当：関悟志）

- a. 主催：長野県山岳総合センター
- b. 協力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和6年8月31日（土）10:00～11:45
- d. 場所：長野県山岳総合センター 講堂
- e. 参加者：15人（大人）
- f. 概要：講座では、「針ノ木峠周辺の山岳文化史」と副題を付け、この峠を越えて織り成された時代ごとの特徴的な事柄を紹介し、北アルプス山中に位置する峠が持つ重要性を考え、山岳文化都市「大町市」の歴史を探った。

10 長野県環境保全研究所との共催事業

(1) 大町市制施行70周年記念事業、連携協定更新記念 令和6年度長野県環境保全研究所信州自然講座（担当：清水博文）

- a. 主催：長野県環境保全研究所
- b. 共催：大町市・大町市教育委員会
- c. 開催日：令和7年2月8日（土）13:00～16:00
- d. 場所：サン・アルプス大町 大会議室
- e. 参加者：84人
- f. 概要：自然環境に関する調査研究の成果や地域のすぐれた自然、あるいは注目される取り組み等を市民の方にわかりやすく紹介するとともに、意見交換会等を通じて地域の課題を共有した。当館からも名誉館長の鈴木より『中部山岳地域の最近の気候変動』と学芸員の岡本による『令和6年度市立大町山岳博物館におけるニホンライチョウ野生復帰の取り組み』の講演を行った。

IV 動植物飼育栽培繁殖事業

1 動物飼育繁殖（担当：岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

- 生体展示…生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
- 教育普及への活用…飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
- 傷病鳥獣の救護…傷ついたり病気になつたりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
- 希少種の保護…希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
- 施設整備の充実…付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では

大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、野生傷病鳥獣救護事業の新規受け入れおよびアルプス動物園友好提携事業での交換動物の飼育は現在行っていない。

飼育動物（令和7年3月31日現在）

（単位：個体）

種名(哺乳類)	雄	雌	不明	計	種名(鳥類)	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2(1)	1		3(1)	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン		1(1)		1(1)	フクロウ		1(1)		1(1)
タヌキ	1			1	キジバト		1(1)		1(1)
					スバルバルライチョウ	1			1
					ライチョウ	4	3		7
計	3(1)	2(1)		5(2)	計	5	5(2)	8(8)	18(10)

・哺乳類 3(2) 種・5(2) 個体

・鳥類 5(3) 種・18(10) 個体

合計 8(5) 種・23(12) 個体

※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

※他園にブリーディングローンで貸し出し中の個体は含まれない

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成28年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。以後、毎年繁殖の取り組みを行い、令和6年度はライチョウの中央アルプスへの野生復帰に取り組んだ。ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、将来的に繁殖を行うことを目指している。ブリーディングローンで貸し出し中の長野市茶臼山動物園の雌および横浜市金沢動物園の雄については、現在繁殖の取り組みが行われている。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

なし。

b. 死亡個体

なし。

c. 転出個体

なし。

d. 今後の計画

飼育個体が老齢となっていることから、展示個体の維持と将来的な繁殖を視野にいれ、令和4年度に引き取りをした雄のペアになる雌の導入を検討している。

②ライチョウ

a. 概要

環境省主導の中央アルプス野生復帰事業への協力として、ニホンライチョウ（以下、ライチョウ）の人工繁殖と、孵化した個体への野生型腸内細菌叢の構築およびアイメリシア原虫への軽度感染等を行うことで、野生復帰可能な個体の創出に取り組み、令和6年9月に中央アルプスへの野生復帰を実施した。本年度野生復帰した雛は、当館の5羽および那須どうぶつ王国の2羽の計7羽となった。

b. 繁殖

本年度は、環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に参画し、その事業の一環として人工繁殖した雛に対して以下の取り組みを行った。野生ライチョウの糞便からつくられた野生型腸内細菌が含まれる菌末を給餌することで、繁殖させた雛に対して野生型腸内細菌叢の定着を試みた。併せて、腸内細菌の定着を促すため、高山植物を給餌した。他にも、野生下のライチョウが高率で感染しているアイメリシア原虫に軽度に感染させ、免疫を獲得させた。

上記の取り組みにより、野生復帰可能な個体を創出するため、2つがいについて繁殖に取り組み、14卵を人工孵化した。その後、12羽の雛が孵化し、野生復帰当日までに8羽の雛が成長した。成長した雛については全羽が野生復帰可能な個体として認められ、中央アルプスへの移送が行われたが、移送中に3羽が死亡し、当館から放鳥に至った羽数は雄1羽、雌4羽の計5羽となった。

c. 野生復帰

野生復帰させた当館の個体について信州大学名誉教授の中村浩志氏が行った調査によると、9月末の調査では全羽が、10月末までの調査では2羽が確認されている。残りの3羽については死亡した可能性、駒ヶ岳周辺から分散した可能性および調査で発見されなかつた可能性が考えられる。

d. 死亡個体

・本年度は繁殖した雛7羽と成鳥雄1羽の死亡があった。死因に関しては、日本獣医生命科学大学において病理解剖及び病理検査を行った。決定的な要因を解明できなかつた個体が多かつたが、9月17日に死亡した3個体については、状況などを踏まえると、移送時の高温状態に対するショックの影響を強く受け死亡に至つたと考えられた。

死亡日	血統登録番号 (LocalID)	雌雄	年齢	死因
令和6年7月7日	(T-2407)	雄	4日齢	不明
令和6年7月7日	(0-2404)	雄	4日齢	不明
令和6年7月12日	(0-2405)	雌	9日齢	卵黄囊炎
令和6年8月24日	(T-2401)	雄	52日齢	不明
令和6年9月17日	(T-2402)	雌	76日齢	高温障害とみられる
令和6年9月17日	(T-2405)	雄	76日齢	高温障害とみられる
令和6年9月17日	(T-2406)	雄	76日齢	高温障害とみられる
令和6年11月16日	N20 (No.9)	雄	8歳	調査中

e. 転入個体

・次年度当館での展示に供するため、計画管理者の策定した移動計画に基づいて移動を行つた。

転入日	血統登録番号 (LocalID)	雌雄	年齢	移動元
令和7年3月13日	N102 (T-2008)	雄	4歳	富山市ファミリーパーク

f. 中央アルプスへの野生復帰個体

・環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に基づいて8羽の雛を中央アルプスへ移送した。なお、移送中に3羽が死亡する事故が発生したことから、放鳥に至つた個体は5羽となつた。

放鳥日	LocalID	雌雄	足環
令和6年9月23日	T-2403	雌	黄黄・黒赤
令和6年9月23日	T-2404	雌	黄黄・黒黄
令和6年9月23日	0-2402	雌	黄黄・黒黒
令和6年9月23日	0-2406	雄	黄黄・黒空
令和6年9月23日	0-2409	雌	黄黄・黑白

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があつた。

月・日	種名	雌雄	記号・愛称	事由 (移動先もしくは移動元)
令和6年6月27日	スバルバルライチョウ	雄	ステラ	死亡
令和7年1月30日	スバルバルライチョウ	雄	コスモ	譲渡 (恩師上野動物園より来園)
令和7年3月24日	チョウゲンボウ	雄		死亡
令和7年3月25日	ハクビシン	雄	マメ	死亡

付属園内での飼育動物の高齢化のためか、本年度は老衰と思われる死亡が3件あつた。

スバルバルライチョウの搬入は、同種の計画管理者の指示のもと移動を行つた。

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和28年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきつたが、平成9年度からは長野県の指導を受けて行つようになり、平成17年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行つており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を收容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を

考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。また、令和 5 年度に長野県の野生傷病鳥獣救護の委託業務は終了した。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

2 植物栽培繁殖 (担当: 千葉悟志)

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

増: なし

減: なし

② 栽培植物 (69 種)

アズミノヘラオモダカ (長野県絶滅危惧 IA 類)、トガクシソウ (長野県絶滅危惧 IA 類)、ビッチュウフウロ (長野県絶滅危惧 IB 類)、サクラソウ (長野県絶滅危惧 II 類、長野県希少野生植物指定種)、トキソウ (絶滅危惧 II 類)、ササユリ (長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種)、カキツバタ (長野県準絶滅危惧)、フクジュソウ (長野県準絶滅危惧)、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、トウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、クロユリ、ガシコウラン、クロマメノキ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ホンドミヤマネズ、オンタデ、ズダヤクシュ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ゼンティカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、シナノオトギリ、アキギリ、アラシグサ、クロクモソウ、イワベンケイ、チョウジギク、ハクサンオミナエシ、ユキワリソウ、カニコウモリ、ヒメクワガタ、ノコンギク、ノハナショウブ、シコタンハコベ、コウリンカ、シラタマノキ

a. 栽培の状況

昨年、付属園においてスパールバルライチョウ舎付近に設けた高山植物エリア (約 16 m²) に移植した個体は大方、順調に育っている。今後もエリアを増やしながら来館者が観察できる環境を整えていきたい。

3 付属園整備 (担当: 清水博文、動物: 岡本真緒、植物: 千葉悟志)

(1) 付属園整備構想の計画見直しについて

① 経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会 (役員対象) に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育 (種類・飼育数) が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的に投資に見合う施設整備か等、慎重に協議を進めた。なお、付属園だけでなく大町公園、東山観光の中での位置づけを考え関係機関などと調整を進めていくこととなった。

② 構想を実現化していく上での主な課題点

- ・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。
- ・導入動物の種類選定にあたって、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について (動物エンリッジメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討)。
- ・イヌワシ舎については、撤去の方針で検討を進める。
- ・コレクションプランについての調査研究と導入。

- ・予算規模（投資規模や年間のランニングコスト）とスタッフ体制の検討。
- ・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況（付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定）。
- ・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の適正な飼育繁殖方法等の検討。
- ・新たに付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、更に具体案の検討を進める。

以上、主だった課題点を例挙したが、これらの課題解決を図りながら、実施計画の策定を行う。

4 公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：鈴木啓助・岡本真緒）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

本年度は随時、各種調査への報告等を行ったほか、各種会議・研修への出席参加なども行った。

V その他

1 各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（清水博文・岡本真緒）
 日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（岡本真緒）
 全国山岳博物館等連絡会議（関悟志）
 長野県博物館協議会 監事（鈴木啓助）
 高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）
 安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助） 美術館・博物館部会（関悟志）
 大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）
 北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協議会 参与（鈴木啓助）
 長野県科学振興会大町支部 理事（清水博文）
 大町桜まつり実行委員会 委員（鈴木啓助）（代理：清水博文）
 針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大代表（藤巻孝之）
 美術展ベストセレクション in 信濃大町実行委員会選考委員（関悟志）
 大町博物館連絡会 幹事（千葉悟志）
 大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（関悟志）
 北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（関悟志）

2 アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和60年2月18日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成27年4月8日、友好提携30周年を記念し、友好提携再締結をした。

3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成17年7月5日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定に

について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

なお連携協定の有効期間は、締結日から 5 年間と定められていることから、あらためて相互に協定書を交わし令和 6 年 4 月 1 日に再締結を行った。有効期間は令和 11 年 3 月 31 日までの 5 年間とした。

5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成 27 年 6 月 18 日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息県に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

6 「梅棹忠夫・山と探検文学賞」授賞式への出席

この賞は、平成 22 年 5 月に「梅棹忠夫・山と探検文学賞」委員会によって創設されたもので、大町市へ贈呈された毎回の授賞作品を当館で山岳図書資料として収蔵している。今年度も同委員会主催によって、令和 6 年 6 月 19 日に第 13 回同賞授賞式が信濃毎日新聞社長野本社講堂で開催され、来賓として招待を受けた大町市長代理として藤巻館長が出席して市長メッセージ（祝辞）を代読した。

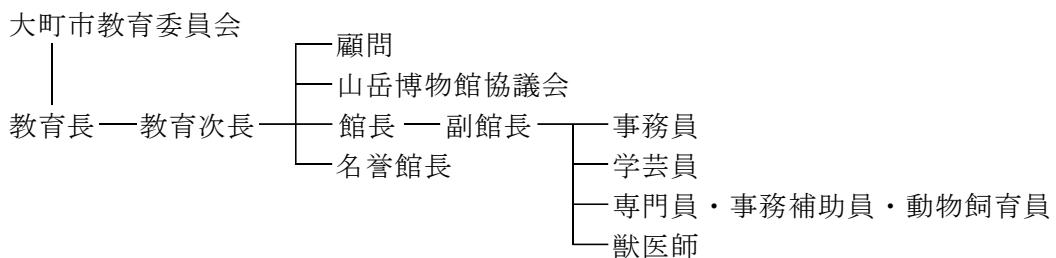
これまでの「梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞作品は以下の通り。

- | | |
|-------------|--|
| 第1回（平成24年度） | 角幡唯介『空白の五マイル』（集英社） |
| 第2回（平成25年度） | 中村 保『最後の辺境 チベットのアルプス』（山と渓谷社） |
| 第3回（平成26年度） | 高野秀行『謎の独立国家 ソマリランド』（本の雑誌社） |
| 第4回（平成27年度） | 中村 哲『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』（NHK 出版） |
| 第5回（平成28年度） | 服部文祥『ツンドラ・サバイバル』（みすず書房） |
| 第6回（平成29年度） | 中村逸郎『シベリア最深紀行 知られざる大地への七つの旅』（岩波書店） |
| 第7回（平成30年度） | 大竹英洋『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森ノースウッズ』（あすなろ書房） |
| 第8回（令和元年度） | 佐藤 優『十五の夏（上・下）』（幻冬舎） |
| 第9回（令和2年度） | 萩田泰永『考える脚』（KADOKAWA） |
| 第10回（令和3年度） | 小野和子『あいたくて ききたくて 旅にでる』（PUMPQUAKES） |
| 第11回（令和4年度） | 川瀬 慈『エチオピア高原の吟遊詩人 —うたに生きる者たち—』（音楽之友社） |
| 第12回（令和5年度） | 神長幹雄ほか『日本人とエベレスト —植村直己から栗城史多まで—』（山と渓谷社） |
| 第13回（令和6年度） | 船尾 修『大インダス世界への旅 —チベット、インド、パキスタン、アフガニスタンを貫く大河流域を歩く—』（彩流社） |

VI 運営

1 組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

小坂共栄 (平成 28 年 3 月 1 日～)、宮野典夫 (令和 2 年 4 月 1 日～)

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：高山俊彦、宮澤洋介

家庭教育の向上に資する活動を行う者：平出誠二、赤坂隆宏

学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、小林芽里、須賀 丈、菊原昭一、須田 哲、丸山祥子

公募による市民：永澄 祭

(4) 職員

①配置

館 長 藤巻孝之

名譽館長 鈴木啓助

副 館 長 清水博文 (館長補佐兼)

事 務 員 (主幹) 降旗孝浩

事 務 員 (主査) 保科和弘

学 芸 員 (企画員) 千葉悟志 (自然科学系植物担当)

学 芸 員 (主査) 関 悟志 (人文科学系担当)

学 芸 員 (主事) 岡本真緒 (自然科学系動物担当)

専 門 員※ 竹村健一 (自然科学系地質担当)

事務補助員※ 家城良好・降旗秀子 (兼資料整理員)

動物飼育員※ 唐澤沙波・辰巳萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純

獣 医 師 横沢 豊 (令和 2 年 3 月 1 日～ 非常勤)

※会計年度任用職員

②人事異動

転 入 館 長 藤巻孝之 (令和 6 年 4 月 1 日 生涯学習課長との兼務)

事 務 員 (主幹) 降旗孝浩 (令和 6 年 4 月 1 日 会計課より)

学 芸 員 (主査) 関 悟志 (令和 6 年 4 月 1 日 生涯学習課文化財係より)

転 出 学 芸 員 (主事) 栗林勇太 (令和 6 年 3 月 31 日 観光文化課へ)

2 市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：令和 6 年 8 月 22 日～令和 8 年 3 月 31 日 [任期：2 年間]

協議委員名簿：高山俊彦 (学校教育関係者)

宮澤洋介 (社会教育関係者) ※協議会会長

平出誠二 (家庭教育活動者)

赤坂隆宏 (家庭教育活動者)

岡田忠興 (学識経験者) ※協議会副会長

村越直美 (学識経験者)

小林芽里 (学識経験者)

須賀 丈 (学識経験者)

菊原昭一 (学識経験者)

須田 哲（学識経験者）
丸山祥子（学識経験者）
永澄 祭（公募による市民）

（1）第1回協議会

- ①日 時：令和6年8月22日（木） 午前10時～午前11時
- ②場 所：山岳博物館 講堂
- ③出席者：宮澤洋介、高山俊彦、小林芽里、菊原昭一、須田 哲、丸山祥子、永澄 祭
中村一郎、藤巻孝之、鈴木啓助、清水博文、降旗孝浩、千葉悟志、保科和弘、関 悟志
岡本真緒、竹村健一
- ④内 容：
 - ・報告
 - 令和5年度事業について
 - 令和6年度事業の進捗について
 - 令和6年8月18日年度ライチョウ繁殖事業について
 - ・協議
 - 本館空調設備工事について
 - 大町市観光審議会委員の推薦について

（2）第2回協議会

- ①日 時：令和7年2月19日（水） 午前10時00分～午前11時30分
- ②場 所：山岳博物館 講堂
- ③出席者：宮澤洋介、岡田忠興、高山俊彦、赤坂隆宏、村越直美、小林芽里、菊原昭一、須田 哲、
丸山祥子、永澄 祭
中村一郎、藤巻孝之、鈴木啓助、清水博文、降旗孝浩、千葉悟志、保科和弘、関 悟志、
岡本真緒、竹村健一
- ④内 容：
 - ・報告
 - 令和6年度事業の進捗
 - ライチョウ保護事業について
 - その他の事業について
 - 入館者状況について
 - ・協議令和7年度事業の概要
 - 新年度事業及び予算について
 - 博物館の空調設備について
 - ライチョウ飼育事業について
 - ・その他

※令和元年度以前等の『年報』では「入館者状況」としていたが、当館条例の表記に則して「入館者」を「観覧者」(博物館を観覧しようとする者)に改めるとともに、「観覧以外の利用者」の項目を新たに加え、両者の総計をもって「利用者状況」とした、なお、令和2年度以前等の「観覧以外の利用者」の数値については、過去の実績を遡って集計した人数を記載した。

3 利用者状況

(1) 年度別の利用者状況

(単位:人)

年 度	利 用 者														総計	
	観 覧 者 (常設展ならび企画展・特別展の観覧)															
	有料観覧者						無料観覧者			小計	合計	観覧以外の利用者※ (催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会)				
	個人		団体			小計	一般 減免	65 歳 以上	市内			催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者	資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レフア レンス)	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			高校生	小中生		学校 (博物館 実習含む)	学校以外 の各種 団体等		合計	
S26	291	—	100	21	—	77	489	—	—	—	—	489	—	—	—	489
27	2,425	—	1,022	186	—	1,514	5,147	—	—	—	—	5,147	—	—	—	5,147
28	8,922	—	2,229	725	—	1,216	13,092	—	—	—	—	13,092	—	—	—	13,092
29	7,779	—	1,831	625	—	1,189	11,424	—	—	—	—	11,424	—	—	—	11,424
30	6,831	—	1,664	1,445	—	945	10,885	—	—	—	—	10,885	—	—	—	10,885
31	2,148	—	888	1,036	—	858	4,930	—	—	—	—	4,930	—	—	—	4,930
32	1,934	—	658	826	—	1,880	5,298	—	—	—	—	5,298	—	—	—	5,298
33	2,979	—	1,032	1,469	—	2,417	7,897	—	—	—	—	7,897	—	—	—	7,897
34	2,972	—	626	1,727	—	1,788	7,113	—	—	—	—	7,113	—	—	—	7,113
35	3,635	—	878	1,943	—	2,143	8,599	—	—	—	—	8,599	—	—	—	8,599
36	4,181	—	1,329	2,132	—	2,521	10,163	—	—	—	—	10,163	—	—	—	10,163
37	5,313	—	1,633	4,549	—	2,748	14,243	—	—	—	—	14,243	—	—	—	14,243
38	6,394	—	1,854	4,727	—	2,918	15,893	—	—	—	—	15,893	—	—	—	15,893
39	10,464	—	1,658	12,600	—	1,520	26,242	—	—	—	—	26,242	—	—	—	26,242
40	14,214	—	1,696	8,050	—	1,600	25,560	—	—	—	—	25,560	—	—	—	25,560
41	10,399	—	1,711	13,070	—	1,500	26,680	—	—	—	—	26,680	—	—	—	26,680
42	12,891	—	1,649	8,301	—	3,059	25,900	—	—	—	—	25,900	—	—	—	25,900
43	18,458	—	2,071	17,769	—	3,240	41,538	—	—	—	—	41,538	—	—	—	41,538
44	16,273	—	2,100	10,845	—	3,749	32,967	—	—	—	—	32,967	—	—	—	32,967
45	13,405	—	1,941	11,623	—	3,960	30,929	—	—	—	—	30,929	—	—	—	30,929
46	18,414	—	3,001	14,718	—	3,193	39,326	—	—	—	—	39,326	—	—	—	39,326
47	17,500	—	3,025	13,268	—	6,877	40,670	—	—	—	—	40,670	—	—	—	40,670
48	25,809	—	4,178	22,612	—	5,774	58,373	—	—	—	—	58,373	—	—	—	58,373

年 度	利 用 者														総計	
	観 覧 者 (常設展ならび企画展・特別展の観覧)															
	有料観覧者						無料観覧者			小計	合計	観覧以外の利用者※ (催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会)				
	個人		団体		小計	一般 減免	市内					催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者	資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レフア レンス)	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生	65 歳 以上	高校生	小中生			学校 (博物館 実習含む)	学校以外 の各種 団体等	合計		
S49	28,702	—	4,277	23,432	—	5,843	62,254	—	—	—	62,254	—	—	—	—	62,254
50	32,345	—	4,896	23,616	—	6,835	67,692	—	—	—	67,692	—	—	—	—	67,692
51	32,111	—	5,142	25,150	—	8,200	70,603	—	—	—	70,603	—	—	—	—	70,603
52	26,155	—	4,311	18,907	—	5,327	54,700	—	—	—	54,700	—	—	—	—	54,700
53	26,346	—	4,158	24,903	—	8,722	64,129	—	—	—	64,129	—	—	—	—	64,129
54	27,769	—	4,485	25,089	—	6,600	63,943	—	—	—	63,943	—	—	—	—	63,943
55	25,743	—	4,414	19,909	—	6,972	57,038	—	—	—	57,038	—	—	—	—	57,038
56	31,697	—	7,558	16,182	—	9,695	65,132	—	—	—	65,132	—	—	—	—	65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965	—	—	7,965	70,215	—	—	—	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026	—	—	9,026	86,416	—	—	—	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117	—	—	8,117	82,384	—	—	—	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770	—	—	6,770	99,866	—	—	—	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509	—	—	4,509	86,678	—	—	—	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605	—	—	3,605	86,238	—	—	—	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269	—	—	6,269	84,925	—	—	—	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709	—	—	3,709	80,744	—	—	—	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844	—	—	4,844	82,798	—	—	—	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577	—	—	4,577	86,477	—	—	—	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413	—	—	3,413	73,824	—	—	—	73,824
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587	—	—	3,587	75,766	—	—	—	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376	—	—	3,376	64,939	—	—	—	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376	—	—	5,376	63,860	—	—	—	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174	—	—	2,174	53,984	—	—	—	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429	—	—	1,429	47,562	—	—	—	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686	—	—	1,686	42,440	—	—	—	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206	—	—	1,206	34,618	—	—	—	34,618

年 度	利 用 者															総計				
	観 覧 者 (常設展ならび企画展・特別展の観覧)																			
	有料観覧者						無料観覧者			小計	合計	観覧以外の利用者※ (催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会)								
	個人			団体			小計	一般 減免	市内			催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者		資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レフア レンス)				
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳 以上	高校生	小中生		学校 (博物館 実習含む)	学校以外 の各種 団体等	合計					
H12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187	—	—	—	1,187	34,059	—	—	—	34,059			
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	—	826	2,710	35,013	—	—	—	35,013			
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	—	451	1,655	28,399	3,332	27	33	—	3,392	31,791	
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	—	616	1,891	28,322	2,873	70	21	6	—	2,970	31,292
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	—	662	1,317	21,551	1,690	25	31	19	—	1,765	23,316
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	—	491	1,599	19,265	1,351	957	780	21	—	3,109	22,374
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	—	688	2,675	23,363	1,639	1,345	913	11	—	3,908	27,271
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	—	693	1,874	17,572	2,212	1,022	575	5	—	3,814	21,386
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	—	619	2,325	18,515	2,220	842	496	4	—	3,562	22,077
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	—	348	1,655	17,942	2,416	540	417	6	—	3,379	21,321
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	—	203	1,274	15,147	1,500	932	699	8	—	3,139	18,286
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2023	146	—	819	2,988	21,033	1,857	1,019	1,609	20	—	4,505	25,538
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	—	783	2,171	16,172	1,579	1,002	1,516	193	—	4,290	20,462
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	—	409	1,490	12,162	693	920	243	86	—	1,942	14,104
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	—	615	3,487	20,919	1,435	1,162	720	144	—	3,461	24,380
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	—	572	3,136	18,242	1,511	725	380	140	—	2,756	20,998
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	—	759	2,894	16,890	867	942	454	181	—	2,444	19,334
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	—	486	3,180	18,692	908	1,736	963	103	—	3,710	22,402
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	—	422	3,417	19,097	514	1,517	1,509	109	—	3,649	22,746
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	—	328	3,294	19,881	3,430	1,469	1,430	120	—	6,449	26,330
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	0	445	2,552	12,195	544	1,342	554	73	57	2,570	14,765
3	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	84	290	3,273	14,072	1,434	749	666	68	20	2,937	17,009
4	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	83	429	3,510	21,307	3,437	833	409	30	33	4,742	26,049
5	10,377	115	866	5,137	143	794	17,432	2,792	130	94	312	3,328	20,760	2,011	501	875	88	32	3,507	24,267
6	12,980	167	1,171	5,486	357	1,108	21,269	2,821	159	70	330	3,380	24,649	1,922	374	1,022	60	146	3,524	28,173
累計	1,405,430	20,839	202,227	637,849	87,818	289,778	2,643,941	125,007	3,957	331	12,619	141,914	2,785,855	41,375	20,051	16,315	1,495	288	79,524	2,865,379

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトやSNSの閲覧者などもあり。

(2) 令和6年度 月別の利用者状況

(単位:人)

月	利 用 者															総計				
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）																			
	有料観覧者						無料観覧者			小計	合計	観覧以外の利用者※ (催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会)								
	個人		団体		小計	一般 減免	市内		小計			催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者	資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レフア レンス)					
大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生	65歳 以上	高校生	小中生	学校 (博物館 実習含む)			学校以外 の各種 団体等	合計	合計						
4	935	7	58	456	84	27	1,567	226	12	5	46	289	1,856	40	0	12	11	63	1,919	
5	1,261	23	107	462	5	35	1,893	222	11	0	25	258	2,151	1,701	15	195	4	9	1,924	4,075
6	773	0	44	371	118	31	1,337	205	8	62	52	327	1,664	0	49	170	5	19	243	1,907
7	1,159	10	167	670	1	612	2,619	321	13	0	24	358	2,977	0	137	42	12	19	210	3,187
8	2,380	65	450	1,296	37	199	4,427	477	14	0	39	530	4,957	80	2	146	8	26	262	5,219
9	1,405	10	78	922	5	49	2,469	230	27	0	14	271	2,740	16	17	151	5	15	204	2,944
10	1,671	2	36	713	3	21	2,446	426	34	1	23	484	2,930	0	0	84	4	14	102	3,032
11	1,304	8	65	282	1	64	1,724	284	15	0	95	394	2,118	57	154	108	2	6	327	2,445
12	349	9	29	56	103	10	556	83	1	0	0	84	640	0	0	40	4	8	52	692
1	433	19	18	45	0	6	521	84	7	2	1	94	615	0	0	40	1	5	46	661
2	495	1	33	77	0	23	629	87	5	0	4	96	725	0	0	46	1	4	51	776
3	815	13	86	136	0	31	1,081	176	12	0	7	195	1,276	28	0	0	2	10	40	1,316
計	12,980	167	1,171	5,486	357	1,108	21,269	2,821	159	70	330	3,380	24,649	1,922	374	1,022	60	146	3,524	28,173
前年度	10,377	115	866	5,137	143	794	17,432	2,792	130	94	312	3,328	20,760	2,011	501	875	88	32	3,507	24,267
前年度比	125%	145%	135%	107%	250%	140%	122%	101%	122%	75%	106%	102%	119%	96%	75%	117%	68%	456%	101%	116%

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトやSNSの閲覧者などもあり。

(3) 令和6年度の開館日数

全310日

4 令和6年度予算・決算

(1) 歳入

(単位:円)

項目	観覧料	県委託金 (傷病鳥獣救護)	寄附金	雑入	合計
当初予算額(A)	7,035,000	0	0	151,000	7,186,000
決算額(B)	8,605,500	0	582,000	318,708	9,506,208
比較(B-A)	1,570,500	0	582,000	△167,708	2,320,208

(2) 歳出

(単位:円)

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	41,080,000	15,606,000	3,580,000	152,000	397,000
決算額(B)	50,466,380	15,919,564	3,320,609	114,530	365,368
比較(B-A)	9,386,380	313,564	△259,391	△37,470	△31,632
項目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業		合計
当初予算額(A)	2,307,000	2,679,000	0		65,801,000
決算額(B)	1,912,013	2,112,017	0		74,210,481
比較(B-A)	△394,987	△566,983	0		8,409,481

5 ミュージアムカフェ・ショップ (担当:清水博文)

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し営業を行っている。

平成6年7月1日から平成25年11月4日にかけては、大町山岳博物館友の会による運営で喫茶・売店「こまくさ」を営業していただき、平成26年4月から令和5年3月31日までは山内優氏によるミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」が運営にあたっていた。

令和5年4月1日から「イイココ・インキュベーション合同会社」と契約を結び営業を行っている。

(1) 令和6年度運営者

- ・氏名:イイココ・インキュベーション合同会社
- ・名称:ミュージアムカフェ・ショップ「c a f e かもしか」

(2) 契約期間

- ・令和6年4月1日～令和7年3月31日まで [1年間]

(3) 令和7年度以降の運営体制について

- ・令和7年4月1日～令和8年3月31日についても、現在の営業者から行政財産の使用許可申請が提出され、令和6年度に引き続き運営を行っていただくこととなった。

VII 関係条例規則等

1 市立大町山岳博物館条例

改正	昭和 57 年 3 月 29 日 条例第 12 号
	昭和 61 年 3 月 24 日 条例第 8 号
	平成元年 3 月 24 日 条例第 7 号
	平成 4 年 3 月 31 日 条例第 8 号
	平成 5 年 12 月 24 日 条例第 32 号
	平成 12 年 3 月 29 日 条例第 13 号
	平成 13 年 3 月 27 日 条例第 13 号
	平成 17 年 12 月 6 日 条例第 80 号
	平成 24 年 3 月 26 日 条例第 3 号
	平成 26 年 3 月 28 日 条例第 8 号
	平成 29 年 3 月 15 日 条例第 7 号
	令和元年 12 月 23 日 条例第 32 号
	令和 5 年 3 月 20 日 条例第 10 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条 この条例は、山岳文化の振興及び活用並びに自然環境の保全及び共生を図るため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条の規定により、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に必要に応じ顧問を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者

(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)

(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条 博物館法第 25 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は15人以内とし、次に掲げる者の中から教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 公募による市民等

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかるわらず、昭和58年3月31日までとする。

附 則(昭和61年3月24日条例第8号)

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月24日条例第7号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成4年3月31日条例第8号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成5年12月24日条例第32号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第13号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月27日条例第13号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年12月6日条例第80号)

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成24年3月26日条例第3号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日条例第8号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月15日条例第7号抄)

(施工期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和元年12月23日条例第32号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月20日条例第10号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表 (第5条関係)

種 別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	450円
	高校生	〃	350円
	小人	〃	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	400円
	高校生	〃	300円
	小人	〃	150円

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日 教育委員会規則第 3 号
改正 平成元年 3 月 31 日 教委規則第 3 号
平成 9 年 12 月 26 日 教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日 教委規則第 9 号
令和 4 年 3 月 31 日 教委規則第 5 号
令和 5 年 3 月 28 日 教委規則第 2 号
令和 5 年 8 月 25 日 教委規則第 7 号
令和 6 年 3 月 25 日 教委規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。)の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、博物館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 博物館に、必要に応じ名譽館長を置くことができる。

3 名譽館長は、上司の命を受け、博物館の調査研究事業を統括し、学芸員を指揮監督する。

4 学芸員は、館長又は名譽館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

5 その他の職員は、館長又は名譽館長の命を受け、職務を遂行する。

6 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、課長補佐又は係長相当職をもって充てる。

7 顧問は、館長又は名譽館長の求めに応じ、博物館の企画及び運営並びに学術的な助言を行うものとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、市立大町山岳博物館観覧料減免申請書(様式第 1 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の二に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第9条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。この場合において、資料を寄贈及び寄託しようとする者は、市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書(様式第3号)を教育委員会に提出するものとする。

2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

(資料等の滅失・損傷)

第10条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第11条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各1名を置く。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第12条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則

1 この規則は、昭和57年6月5日から施行する。

2 市立大町山岳博物館規程(昭和29年教育委員会規則第9号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和29年山岳博物館規程第1号)は、廃止する。

附 則(平成元年3月31日教委規則第3号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成9年12月26日教委規則第3号)

この規則は、平成10年1月1日から施行する。

附 則(平成12年3月30日教委規則第9号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月31日教委規則第5号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月28日教委規則第2号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和5年8月25日教委規則第7号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月25日教委規則第4号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

様式第1号(第6条関係)

分類 番号		公開・ 非公開区分	公開・非公開 一部公開		担当者	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	可 ・ 否
			保存区分	公開可能時期							
非公開(一部公開)とする部分・理由											

市立大町山岳博物館観覧料減免申請書

年 月 日

大町市教育委員会 殿

住 所

団体名

代表者

連絡先

下記のとおり博物館観覧料の減免を受けたいので申請いたします。

記

減免を必要とする理由	
入館年月日	年 月 日
入館代表者及入館人員	氏名 ほか 名
減免の額	

様式第2号（第7条関係）												
分類番号		公開・	公開・非公開		担当者	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	可・否	
		非公開区分	一部公開									
非公開（一部公開）とする部分・理由			保存区分									
			公開可能時期									
市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書												
年 月 日												
大町市教育委員会 殿												
住 所												
団体名												
代表者												
連絡先												
下記のとおり博物館資料の特別利用（館内利用・館外利用）をしたいので申請いたします。												
記												
利用目的												
利用期間												
利用場所												
利用資料	品名（記号・番号）		備 考									
輸送方法				担当者								
その他												
参考事項												

様式第3号（第9条関係）

庶務・専門員・学芸員	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	副市長	市長
主務							

市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書

年 月 日

大町市長
大町市教育委員会教育長 殿

住 所 _____

(団体名) _____

氏 名 _____

電話番号 _____

下記のとおり資料を市立大町山岳博物館へ寄贈・寄託（該当に○）します。

記

資料	品 名	数 量

備 考

条 件

- 寄贈・寄託を受けた博物館資料は、既存の収蔵資料と同一の取扱いをするものとする。
- 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 寄託を受けた博物館資料は、万が一の天災、その他不可抗力による滅失又は破損に対し、動産総合保険の対象物件とする。

3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

(趣旨)

第 1 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第 3 委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第 4 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

第 5 委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第 6 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第 7 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第 8 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第 9 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

VIII 市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粹たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの大町山岳博物館のるべき姿を考えていく。

2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人との共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

- ①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。
- ②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。
- ③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
- ④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
- ⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- ①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
- ②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
- ③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人との共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味が持てるよう示す。また、それを通じて新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっ

かけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

IX 施設

1 敷地面積

41,575.69 m² (都市公園としての開設面積) 市有地: 38,493.15 m²、民有地: 3,082.54 m²

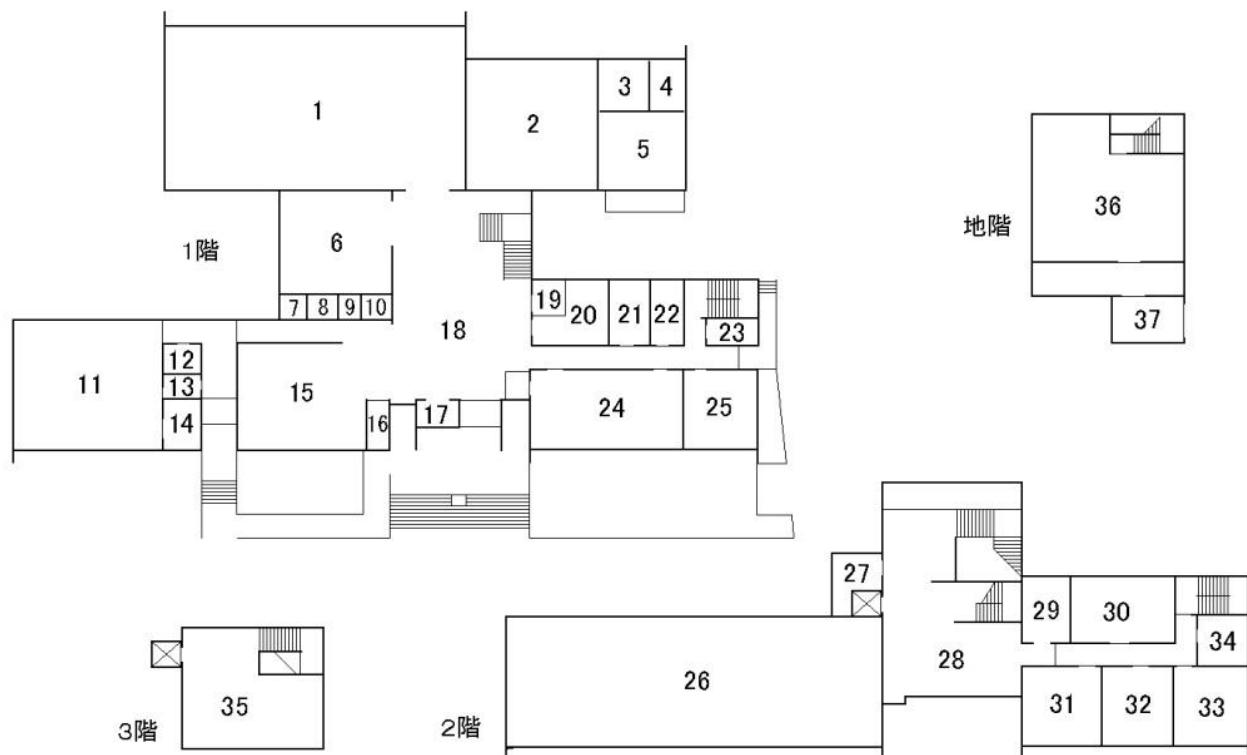
2 本館建物

- (1) 構造: 鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階
- (2) 竣工: 昭和57年5月31日竣工
- (3) 面積: 建築面積 1,280.9 m² 延べ床面積 2,207.04 m²

(4) 床面積表

(単位: m²)

1階 1,244.9				2階 686.14			
名称		面積	名称	面積	名称		面積
1	展示室	290.0	14	準備室	9.1	26	展示室
2	収蔵庫	104.0	15	カフェ・ショップ [°]	74.2	27	パッケージ室
3	パッケージ室	16.4	16	授乳室	6.7	28	展示室
4	燻蒸室	12.3	17	荷物置場	14.4	29	男子トイレ
5	荷解作業室	41.3	18	ホール	116.9	30	収蔵庫
6	特別展示室	70.4	19	多目的トイレ	6.5	3階 116.8	
7	EV機械室	6.0	20	女子トイレ	22.5	名称	面積
8	倉庫	3.5	21	書庫	16.7	35	展示室
9	倉庫	3.0	22	更衣室	14.6	地階 159.2	
10	E.V	5.1	23	倉庫	8.8	名称	面積
11	講堂	110.2	24	事務室	69.6	36	機械室
12	トイレ	8.1	25	休憩室	32.5	37	車庫
13	倉庫	5.4	廊下、階段等		176.7		



3 付属施設

(1) 付属園（付属動植物園） ※本館隣

①施設の概要 敷地面積 : 39,875.92 m²

②建物の概要 (建設年度順) ※B-8・10については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB 造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB 造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB 造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB 造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB 造	22.62(S53)	B-10	CB 造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	パネル造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	パネル造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB 造	46.50(S61)						



(2) 山岳図書資料館 ※本館隣

①施設の概要

・構造・規模：鉄骨造 地上2階

・竣工・開館：平成24年3月2日竣工 平成24年4月20日開館

・各面積：敷地面積 498.21 m² 建築面積 59.96 m²

延床面積 117.45 m² (1階 58.725 m²、2階 58.725 m²)

・設備・備品：ハンドル式移動書架 18基 固定式書架（各種）29基 ほか

X 利用案内 (令和7年3月31日現在)

- 1 開館時間 4~11月 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)
11~3月 午前10時~午後4時 (入館は午後3時30分まで)
- 2 休館日 毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始 (12月29日~1月3日)
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館
- 3 交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分
車 長野自動車道安曇野ICから 40分
(北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ28km)
※博物館前に無料駐車場 (普通車30台・大型バス5台収容)

4 観覧料	区分	大人	高校生	小・中学生
	個人	450円	350円	200円
	団体 (30名様以上)	400円	300円	150円

- 5 ユニバーサルデザイン
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応
エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能
- 6 所在地および連絡先
〒398-0002 長野県大町市大町8056-1
(標高: 766m、経緯: 北緯36度30分、東経137度52分)
TEL: 0261-22-0211 / FAX: 0261-21-2133
E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL: <https://www.omachi-sanpaku.com>

市立大町山岳博物館 令和6年度 年報

2025(令和7)年7月25日 発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133